

科目名	講義時期	単位（時間）	講 師
初年次セミナー	1 年次前期	1 単位（15 時間）	
<学習のねらい> 看護学生として自ら学ぶ力、読む・書く・聴く・考える・調べる・まとめる・表現する等が土台となる。これらの講義・演習を通して学修方法を身につける。また、人と接する態度・礼節などの一般常識や自己管理、自己責任、規範意識を理解し、他者を尊敬した行動ができる。			
回	授 業 内 容		授業方法
1	「看護専門学校で学ぶということ」「学ぶためのルール」を理解する。 1 主体的学習の意義、授業受講マナー（遅刻、私語、飲食、携帯電話等に関すること） 2 学生生活についての諸注意、各教室の使用方法。 3 SNS やブログの正しい利用方法。		講義
2	1 教育課程と時間割について。 2 履修について（単位、単位認定試験、欠席、遅刻等）。 3 学校カウンセリングについて。		講義
3	1 講義を受けるための姿勢を身に付ける。ノートのとり方、活用の仕方を学び、講義の受け方の重要性を認識する。 2 文章の読み方を身に付け、効率の良い読書方法を理解し、実践していく。		講義
4	1 文章の読み方（応用）を再確認する。 2 看護学のテキストの読み方を理解する。 3 文・文章の書き方を身に付ける。		講義
5	〈 レポートの書き方を学ぶ 〉 1 書くための準備 2 構成の仕方 3 書き方のルール 4 引用の仕方 5 課題について		講義
6	討論の方法とルールを学び、グループ討論が効果的に行える。 ① テーマに沿った自分の考えを、グループメンバーに伝えられるための効果的なカンファレンスの方法を学び実践する。 ② プレゼンテーション方法について学ぶ。 ③ グループ内での役割、発表までの計画立案ができる。		講義 演習
7	グループ内での役割、発表までの計画立案、発表を聞き・考える力を養う 発表資料を作成・最終発表・質疑応答		演習
<テキスト>学生便覧 シラバス 配布資料 <参考図書>知へのステップ 学習技術研究会/編著 くろしお出版			
評価方法	課題レポート 40 点 授業態度・演習態度 60 点		
評価	S:100～90 点 A: 89～80 点 B: 79～70 点 C: 69～60 点 D: 59 点以下		

科目名	講義時期	単位（時間）	講 師
日本語表現法	1 年次前期	1 単位（30 時間）	
<学習のねらい> 日本語の基礎を学び、表現する方法を知る。 自分の考えをわかりやすくまとめ、相手にどのように作用するかを考慮した表現方法を学ぶ。 課題等の基本的な記述方法や表現について学ぶ。			
回	授 業 内 容		授業方法
1	概論（日本語とは何か、日本語の変遷）		講義
2	日本語表記の基本 （現代仮名遣い、送り仮名、句読点、外来語の表記等）		講義
3	文章の書き方 ・作成要領、手順・構成 ・話し言葉と書き言葉、語句の対応と並べ方他		講義
4	評論文、文学等の様々な文章表現の読み方を理解する。		講義
5	悪文とは（明確な文章を書こう）		講義
6	報告書・レポートの違い、レポートを書く手順		講義
7	レポートの書き方（構成・参考文献等のあげ方）		講義
8	キーワード作文について		講義
9	読解型作文について		講義
10	文章の要約：提示された文章を読み、要約する。		講義
11	口頭発表の技術について（話し言葉と書き言葉の実践）		講義
12	場面に合わせた言葉の使い方 （敬語：種類と働き、尊敬語、謙譲語、丁寧語）		講義
13	メール・手紙の基本と書き方		講義
14	日本語表現のまとめ		講義
15	まとめ、単位認定試験（1H）		
<テキスト> 表現力豊かに、気の利いた文章が書ける 花井正和著 すばる舎			
評価方法	ミニ試験・単位認定試験等の総合評価		
評価	S:100～90 点 A：89～80 点 B：79～70 点 C：69～60 点 D：59 点以下		

科目名	講義時期	単位（時間）	講 師
家族論	1 年次通年	1 単位（15 時間）	
<学習のねらい> 家族の形態や機能について理解し、現代家族の特徴について学ぶ。			
回	授 業 内 容		授業方法
1	家族の形態と機能		講義
2	パートナーシップ① 結婚の意味と機能		講義
3	パートナーシップ② ジェンダーと性役割観		講義
4	家族の関係① ペアレンティング・子育て世代		講義
5	家族の関係② 祖父母の役割・高齢世代		講義
6	家族と社会① 家族と生活文化		講義
7	家族と社会② 地域と家族・職場と家族		講義
8	まとめ、単位認定試験（1H）		
<テキスト> 系統看護学講座 別巻 家族看護学 医学書院			
評価方法	筆記試験 80 点 平常点（授業参加度、課題への取り組み等） 20 点		
評価	S:100～90 点 A : 89～80 点 B : 79～70 点 C : 69～60 点 D : 59 点以下		

科目名	講義時期	単位（時間）	講 師
発達心理学	1 年次前期	1 単位（30 時間）	
<学習のねらい> 人間の生涯発達を、発達に関する諸理論の理解を下に、身体・心理・社会的側面からとらえ、人間とは何かを学び人間理解を深める。			
回	授 業 内 容		授業方法
1	発達心理学の定義と歴史		講義
2	発達の規定要因		講義
3	発達の理論①（フロイト・マズロー）		講義
4	発達の理論②（エリクソン）		講義
5	発達の理論③（ピアジェ）		講義
6	発達の理論④（愛着、ボウルビィ・エインズワース・ハーロー）		講義
7	発達の理論⑤（レヴィンソン）		講義
8	発達の理論⑥（コールバーグ・ハヴィガースト）		講義
9	ライフサイクルからみた発達①（乳幼児期）		講義
10	ライフサイクルからみた発達②（児童期）		講義
11	ライフサイクルからみた発達③（青年期）		講義
12	ライフサイクルからみた発達④（成人期）		講義
13	ライフサイクルからみた発達⑤（成人期～老年期）		講義
14	ライフサイクルからみた発達⑥（老年期）		講義
15	まとめ、単位認定試験（1H）		
<テキスト> 講師作成資料配布			
評価方法	筆記試験 70 点 平常点（授業参加度，課題への取り組み等） 30 点		
評価	S:100～90 点 A：89～80 点 B：79～70 点 C：69～60 点 D：59 点以下		

科目名	講義時期	単位（時間）	講 師
人間関係論 I	1 年次前期	1 単位（30 時間）	
<学習のねらい> 医療の現場は、患者様やその家族、他の医療従事者とのコミュニケーションが必要不可欠となる。自己を理解し、他者を理解する。自己の言動表現の他者への影響を知る。人間関係づくりの基礎となるコミュニケーションスキル、カウンセリングの基本を学び、ホスピタリティを模索する。			
回	授 業 内 容		授業方法
1	アイスブレイク。自己紹介し仲間と話すきっかけをつくる。多くの学生同志が知り合い、全員の前で自己表現をおこない互いに理解し始める。		演習
2	挨拶の基本を知る。看護の専門職に到達するため自身の健康管理を考え、学習環境を理解する。		講義・演習
3	挨拶の基本を実際に使用する。自己理解のために自身のマンダラチャートを作成し、発表する。		講義・演習
4	自己理解の上で、他者の話を聴くこと・自己概念についてワークを通して理解し、考える。		講義・演習
5	価値観を理解し他者理解をすすめる。好き・嫌いについてコミュニケーションワークを通してわかちあい、交流する。		講義・演習
6	双方向コミュニケーション演習で他者理解をすすめる。 第一印象・思いこみ・先入観・固定観念について考える。		講義・演習
7	双方向コミュニケーション演習で他者理解をすすめる。 カウンセリングの基本・コミュニケーションの基礎		講義・演習
8	双方向コミュニケーション演習で他者理解をすすめる。 コミュニケーションの基礎（伝え方、聴き方）		講義・演習
9	双方向コミュニケーション演習で自己理解・他者理解をすすめる。 コミュニケーションの基礎（質問の仕方）		講義・演習
10	双方向コミュニケーション演習で自己理解・他者理解をすすめる。 コミュニケーションの基礎（観察する）		講義・演習
11	コミュニケーションの基礎（感情の気づき）／ホスピタリティの理解		講義・演習
12	コミュニケーションの基礎（共感的理解）／ホスピタリティの理解		演習
13	コミュニケーションの基礎（自己開示）／ホスピタリティの理解		演習
14	まとめ・マンダラチャートの確認・講義全体のまとめ（フィードバック）		講義
15	まとめ、単位認定試験（1H）		
<テキスト> 人間関係づくりトレーニング 金子書房			
評価方法	筆記試験 70 点 レポート 30 点		
評価	S:100～90 点 A：89～80 点 B：79～70 点 C：69～60 点 D：59 点以下		

科目名	講義時期	単位（時間）	講 師
人間関係論Ⅱ	3 年次通年	1 単位（15 時間）	
<学習のねらい> 臨床実習中に体験した、人間関係で気になったこと、困ったこと、悩んだことをもとに振り返り、専門職としてのコミュニケーション能力を高める。看護師の現場（社会人）で必要なコミュニケーションスキルを理解する。看護師としてのホスピタリティを理解する。			
回	授 業 内 容		授業方法
1	自己理解と気づきのメカニズムを理解する。ライフサークルを通してマンドラチャートのイメージをつくる		講義
2	自己開示と関係的成長を理解する。5 年先未来に向かうマンドラチャートの作成		講義・演習
3	きき方とかかわり方 気づきの明確化		演習
4	言葉の使い方 1：具体的な言葉の使い方 抽象化と具体化		演習
5	言葉の使い方 2：言葉の 3 つのレベルとフィードバックは成長の鏡		演習
6	コンセンサスと人間関係づくり／リーダーシップ、リーダーとファシリテーターへの理解		演習
7	チームワークの理解／成熟したグループ／ホスピタリティの追求 マンドラチャートの確認		講義
<テキスト> 職場の人間関係づくりトレーニング 金子書房 講師作成資料配布			
評価方法	レポート 70 点 授業参加度（出席・参加態度） 30 点		
評価	S:100～90 点 A：89～80 点 B：79～70 点 C：69～60 点 D：59 点以下		

科目名	講義時期	単位（時間）	講 師
生命哲学	3 年次通年	1 単位（30 時間）	
<学習のねらい> 生とは、死とは、生命とは何かを仏教・キリスト教の観点から日本人の思想、文化を考え理解し、看護に携わるものとして生命倫理、死生観の基礎を培い生命理解を深める。			
回	授 業 内 容		授業方法
1	人間・生きるとは（生命哲学・生命倫理とは）		講義
2	宗教の発生（宗教とは何か）		講義
3	日本人の宗教観（神道と仏教について）		講義
4	日本人の死生観・来世観（神道・仏教の他界観）		講義
5	キリスト教の基礎および医療において重要なキリスト教概念		講義
6	キリスト教における生・病・死		講義
7	スピリチュアリティ（霊性）とキリスト教①		講義
8	スピリチュアリティ（霊性）とキリスト教②		講義
9	中絶・避妊・自殺とキリスト教		講義
10	現代的問題とキリスト教（死の自己決定権・生殖医療）		講義
11	現代の死生観①（葬儀・追善・墓供養の変化）		講義
12	現代の死生観②（新たな死の概念―脳死・尊厳死・安楽死―）		講義
13	現代の死生観③（新たな死の迎え―終活・孤独死―）		講義
14	医療人としての心得		講義
<テキスト> 講師作成資料配布			
評価方法	レポート 100 点		
評価	S:100～90 点 A：89～80 点 B：79～70 点 C：69～60 点 D：59 点以下		

科目名	講義時期	単位（時間）	講 師
英語	1 年次後期	1 単位 (30 時間)	
<学習のねらい> 医療従事者に求められる基本的な医学英語の知識と基本的な英会話を学習し、医療現場における英語の基礎能力を培う。			
回	授 業 内 容		授業方法
1	挨拶・自己紹介 Unit 1		講義
2	初診 Unit 2		講義
3	病棟案内 Unit 3		講義
4	症状 Unit 6		講義
5	怪我と緊急事態 Unit 7		講義
6	体調を尋ねる Unit 8		講義
7	与薬方法の表現 Unit 10		講義
8	導入（医学用語の基本構造）・接尾辞	§ 1. 2	講義
9	接頭辞・接尾辞	§ 3. 5	講義
10	消化器系の用語	§ 4	講義
11	体内物質の用語	§ 8	講義
12	循環器. リンパ系.呼吸器系の用語	§ 9. 10	講義
13	脳神経系. 筋肉系. 骨格系の用語	§ 12.13	講義
14	模擬テスト		講義
15	まとめ、単位認定試験（1H）		
<テキスト> 最新医学用語演習 南雲堂 Speaking of Nursing 南雲堂			
評価方法	単位試験 80 点 授業内小テスト 20 点		
評価	S:100～90 点 A : 89～80 点 B : 79～70 点 C : 69～60 点 D : 59 点以下		

科目名	講義時期	単位（時間）	講 師
看護に必要な物理学	1 年次通年	1 単位（15 時間）	
<学習のねらい> 1. 看護師として人の身体に安全に接することができるようになるために、物理的な考え方を使得、ヒトの体の動きや看護技術の根拠を説明する。 2. 「知っている」知識ではなく「使える」知識にするために、指示に合った行動をする。不明な場合は、自発的に質問をする。 3. 他者の体に接触する、また自分も接触されるときに、自分と他者双方の体に対して敬意を払った態度をとる。			
回	授 業 内 容		授業方法
1	本科目のガイダンス 単位と力 力を知ろう		
2	ボディメカニクスの実際（体位と基底面と褥瘡）力の向きを意識しよう		
3	安定の条件 転倒を防ぐには 回転を考えてみよう		
4	呼吸器の陰圧陽圧 気体の圧力を学ぼう		
5	動脈血圧 血圧と体位 血圧計の原理を学ぼう		
6	静脈と採血 流体の性質を知ろう		
7	復習とまとめ		
8	まとめ、単位認定試験（1H）		
	＊クラスの習熟度によって、進度や内容は調整		
<テキスト> 系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能1 医学書院 オリジナルのレジュメ（授業内で配布） <授業方法> 講義形式の授業、参加型の授業（講師と受講者、受講者同士の双方向） 知識の定着を図るトレーニング 習熟度を測る小テスト			
評価方法		筆記試験 100 点	
評価		S:100～90 点 A: 89～80 点 B: 79～70 点 C: 69～60 点 D: 59 点以下	

科目名		講義時期	単位（時間）	講 師
医療従事者に必要な 接遇とマナー		1 年次前期	1 単位（15 時間）	
<学習のねらい> 医療従事者に本当に必要な接遇とコミュニケーションとは何かを、真摯に考え続けるあり方を学ぶ。また、専門職業人としての基礎的なマナー（挨拶、立ち居振る舞い、所作、物の指し示し、物の授受、電話対応）を習得する。対人援助職としての自己と様々な年代にある他者（クラスメート、教員、実習指導者、患者、家族）との向き合い方とコミュニケーション技法を体得する。				
回	授 業 内 容			授業方法
1	医療従事者に本当に必要な接遇とは何か マナーの基本・マナーの必要な意味			講義
2	表現と表出の違いを知る（感じのよい「あいさつ」とお辞儀） 表情管理と表現管理（所作、物の指し示し、物の授受、エレベーターの乗り降り、電話対応、敬語・メッセージの伝え方）			講義
3	自分の所作を実際に振り返ってみる			講義・演習
4	マナーの基本に準じた、理想の看護師像を考える			講義・演習
5	医療マナー・接遇とは			講義・演習
6	コミュニケーション技法 （敬語での対応の仕方 クッション言葉）			講義・演習
7	患者体験（思いを知る）			演習
8	まとめ、単位認定試験（1H）			
<テキスト> 講師作成資料配布				
評価方法		筆記試験 70 点 平常点（授業参加度，課題への取り組み等） 30 点		
評価		S:100～90 点 A：89～80 点 B：79～70 点 C：69～60 点 D：59 点以下		

科目名	講義時期	単位(時間)	講 師
情報科学 I	1 年次前期	1 単位（15 時間）	
<学習のねらい> 情報システム技術とそのリスク対策としての情報セキュリティの概要を理解し、医療分野における活用状況を学び、システム対応能力を養う。また Word、Excel、PowerPoint の実践技術を習得し、事務処理能力及びレポート作成・プレゼンテーション能力を高める。			
回	授 業 内 容		授業方法
1	オリエンテーション 情報システム基礎	授業・評価についての説明、コンピュータの概要・仕組み・ネットワークとインターネット、情報セキュリティ概要	講義
2	医療分野の情報システム	医療分野に於ける情報システムの活用と情報セキュリティ対策	講義
3	コンピュータの基本操作 Word①	Windows の基本操作、ファイルとフォルダ、文字の入力と変換 Word の画面構成、ページ設定	演習
4	Word②	書式設定、図の挿入、ページ番号、図表番号等	演習
5	Excel①	効率の良いデータ入力、数式、関数	演習
6	Excel②	書式設定、グラフ作成、並べ替えとフィルター、絶対参照	演習
7	PowerPoint	プレゼンテーション資料の作成と表現	演習
8	まとめ、単位認定試験（1H）		
<テキスト> 講師作成資料配布			
評価方法	筆記試験 50 点 技術試験 50 点		
評価	S:100～90 点 A : 89～80 点 B : 79～70 点 C : 69～60 点 D : 59 点以下		

科目名	講義時間	単位(時間)	講 師
情報科学Ⅱ	3 年次通年	1 単位（15 時間）	
<学習のねらい> 看護研究における統計処理の基本と活用方法を学ぶ。医療分野におけるデータ活用の実際を知り、看護の質の向上を目的とした看護研究にデータがどう活用できるか、またその意義について理解する。			
回	授 業 内 容		授業方法
1	オリエンテーション 統計の基礎知識	授業・評価についての説明 数とは、統計処理とは、統計処理の基本概念	講義
2	記述統計	量的データの扱い、質的データの扱い、2 変数の関係	講義
3	推測統計	点推定、区間推定	演習
4	検定と分析①	検定	演習
5	検定と分析②	t 検定	演習
6	検定と分析③	カイ二乗検定	演習
7	検定と分析④	パラメトリック検定、ノンパラメトリック検定	演習
8	まとめ、単位認定試験（1H）		
<テキスト> 講師作成資料配布			
評価方法	試験（実技：55 点、筆記：45 点）		
	S:100～90 点 A：89～80 点 B：79～70 点 C：69～60 点 D：59 点以下		

科目名	講義時期	単位（時間）	講 師
健康と運動Ⅰ	1 年次前期	1 単位（15 時間）	
<学習のねらい> 1. 自らの健康概念と健康を維持・増進していくための基礎を学ぶ。 2. からだと運動の意義を理解し、自身の健康維持のための機会とする。			
回	授 業 内 容		授業方法
1	健康とスポーツの概念（健康維持に必要な運動基準）		講義
2	ウェルネスライフ①（自分の体を知る・歪みチェック）		演習
3	ウェルネスライフ②（自分の体を知る・体力チェック）		演習
4	体を整える①（体幹・筋力トレーニング、ストレッチ等）		演習
5	体を整える②（体幹・筋力トレーニング、ストレッチ等）		演習
6	体を整える③（体幹・筋力トレーニング、ストレッチ等）		演習
7	振り返り（歪みチェック・体力チェック）		演習
8	まとめ、単位認定試験（1H）		
<テキスト> 講師作成資料配布			
評価方法	筆記試験 65 点 出席・参加度 35 点		
評価	S:100～90 点 A：89～80 点 B：79～70 点 C：69～60 点 D：59 点以下		

科目名	講義時期	単位（時間）	講 師
健康と運動Ⅱ	3 年次通年	1 単位（15 時間）	
＜学習のねらい＞ 1．健康維持・増進、体力向上をはかるための方法を多方面から学ぶ。 2．自己の心身の健康管理ができる実践力を身につける。			
回	授 業 内 容		授業方法
1	運動と活動量①（身体機能の変化）		講義
2	運動と活動量②（活動量の指標・算出方法）		講義
3	体を整える①（ボール体操・ストレッチ・リラクゼーション等）		演習
4	体を整える②（ボール体操・ストレッチ・リラクゼーション等）		演習
5	体を整える③（ボール体操・ストレッチ・リラクゼーション等）		演習
6	体を整える④（ボール体操・ストレッチ・リラクゼーション等）		演習
7	自律神経回復法・振り返り		演習
8	まとめ、単位認定試験（1H）		
＜テキスト＞ 講師作成資料配布			
評価方法	筆記試験 65 点 出席・参加度 35 点		
評価	S:100～90 点 A：89～80 点 B：79～70 点 C：69～60 点 D：59 点以下		

科目名	講義時期	単位（時間）	講 師
レクリエーション論	2 年次前期	1 単位（15 時間）	
<学習のねらい> レクリエーションの基本を理解し、体験楽習(学習)を実践しながら、臨床や介護等の場面で対象に合わせたレクリエーションを考えられる基盤を学ぶ。 グループワークトレーニングにより、対人関係力、問題解決技法を体験学習する。			
回	授 業 内 容		授業方法
1	楽しさと元気づくりの理論		講義
2	レクリエーションと対象支援の展開と方法（小児・高齢者のレクリエーション） 対人関係トレーニング(GWT)		講義 演習
3	レクリエーションの企画（プランニングGWT）		講義 演習
4	レクリエーションの企画・実施・評価②		演習
5	レクリエーションの企画・実施・評価③		演習
6	レクリエーション論のまとめ		講義
7	音楽療法		演習
8	まとめ、単位認定試験（1 H）		
<テキスト> 講師作成資料配布			
評価方法	筆記試験 60 点 企画書提出・演習等他 40 点		
評価	S:100～90 点 A：89～80 点 B：79～70 点 C：69～60 点 D：59 点以下		

科目名	講義時間	単位(時間)	講 師
キャリア情報論	3 年次前期	1 単位 (15 時間)	看護師として病院勤務有
<学習のねらい> 看護師の活躍の場は、病院・施設・地域（在宅、企業）など多岐にわたっている。それぞれの場において看護を実践している看護師から得られる情報をもとに、将来の看護実践に向け意欲を高める。また、様々な場で展開される看護の特徴を知り、視野を広める機会とする。			
回	授業内容	講師	授業方法
1	オリエンテーション 就職活動の実際（応募書類等の準備、面接、選考試験等）	講義	
2	小児病棟、産婦人科病棟（外来含）	講義	
3	内科系病棟 外科系病棟（経過別含む）	講義	
4	手術室・集中治療室	講義	
5	治療を要する長期療養者および障害者病棟	講義	
6	精神科病棟	講義	
7	訪問看護ステーション	講義	
<テキスト> 講師作成資料配布			
評価方法	レポート提出 65 点 授業参加度（出席、課題提出状況など） 35 点		
評価	S:100～90 点 A：89～80 点 B：79～70 点 C：69～60 点 D：59 点以下		

科目名	講義時期	単位（時間）	講 師
形態機能学Ⅰ	1 年次前期	1 単位（15 時間）	看護師として病院勤務有
<学習のねらい> 解剖生理学を学ぶための基礎知識を身につける。 形態機能学では人体の構造を解剖学で学び、人体の機能を生理学で学ぶ事になります。人体を構成する細胞内の構造と細胞が集まり組織となり、器官を形成していく過程を解剖学的用語、生理学的用語と共に慣れる事が目標です。			
回	授 業 内 容		授業方法
1	序：授業の内容の説明、人体の形状を名称と共に覚える		講義
2	人体の各器官の機能と構成する臓器の種類を知る		講義
3	細胞の基本構造を核と細胞内小器官の役割を通し理解する		講義
4	DNA を複製して分裂、増殖し細胞周期を繰り返す体細胞とは		講義
5	細胞内外の環境を調節し生命を維持する細胞膜の役割とは		講義
6	人体の内部の腔所と体内臓器を保護する粘膜の役割について		講義
7	成熟した細胞は上皮組織・筋組織・結合組織・神経組織を作る		講義
8	まとめ、単位認定試験（1H）		
<テキスト> 系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能Ⅰ 医学書院 講師作成資料、小テスト問題 <参考テキスト> ナーシング・グラフィカ 人体の構造と機能① 解剖生理学 MCメディカ出版			
評価方法	筆記試験 100 点		
評価	S:100～90 点 A：89～80 点 B：79～70 点 C：69～60 点 D：59 点以下		

科目名	講義時期	単位（時間）	講 師
形態機能学Ⅱ	1 年次前期	1 単位（30 時間）	看護師として病院勤務有
<学習のねらい> 血液系の組成と機能を学び、生命維持に不可欠な要素であることや、各種成分の役割について理解を深める。循環器系の構造と機能を学び、血液循環機能、刺激伝導系、血圧のメカニズムについて理解を深める。呼吸器系の構造と機能を学び、ガス交換のメカニズムについて理解を深め、それぞれの関連性が生命維持に大きく関与することを学ぶ。			
回	授 業 内 容		授業方法
1	呼吸① 呼吸器の構成（上気道、下気道、胸膜）		講義
2	呼吸② 内・外呼吸、気道・肺胞の機能、呼吸のメカニズム		講義
3	呼吸③ 肺胞でのガス交換----換気・外呼吸・ガスの運搬・内呼吸		講義
4	呼吸④ 呼吸気量の測定による肺気量分画の意味		講義
5	呼吸⑤ 呼吸の神経性調節、呼吸中枢、病的呼吸		講義
6	呼吸⑥ 拘束性・閉塞性換気障害の病態		講義
7	血液の組成と機能① 血清と血漿、赤血球、ヘモグロビン、酸素飽和度		講義
8	血液の組成と機能② 赤血球の基準値、血液型抗原、血漿タンパク質		講義
9	血液の組成と機能③ 白血球の種類と役割、凝固因子、HLA 抗原		講義
10	血液循環と調節① 体循環と肺循環、心臓の構造、冠状動脈		講義
11	血液循環と調節② 心臓の収縮と血圧の測定、血圧と血流量の調節		講義
12	血液循環と調節③ 心臓の興奮の伝導と心電図、不整脈の種類		講義
13	血液循環と調節④ 血管の構造、体循環・肺循環、動脈・静脈の構造		講義
14	血液循環と調節⑤ 全身の動脈循環と静脈循環、循環不全		講義
15	まとめ、単位認定試験（1H）		
<テキスト> 系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能 1 医学書院 <参考テキスト> ナーシング・グラフィカ 人体の構造と機能① 解剖生理学 MC メディカ出版			
評価方法		筆記試験 100 点	
評価		S:100～90 点 A：89～80 点 B：79～70 点 C：69～60 点 D：59 点以下	

科目名	講義時期	単位（時間）	講 師
形態機能学Ⅲ	1 年次前期	1 単位（30 時間）	看護師として病院勤務有
<学習のねらい> 消化器系の構造と機能を学び、生きるためのエネルギー源となる食物の消化と吸収について理解を深める。腎臓及び尿路の構造と機能を学び、体液の調節と尿の生成について理解を深める。			
回	授 業 内 容		授業方法
1	消化と吸収① 口腔・唾液腺・咽頭・食道・咀嚼とは		講義
2	消化と吸収② 咀嚼と嚥下の過程、嚥下障害		講義
3	消化と吸収③ 胃の構造と機能、胃液の分泌調節		講義
4	消化と吸収④ 小腸、大腸の構造・栄養の消化と吸収の仕組み		講義
5	消化と吸収⑤ 膵臓、肝臓、胆嚢の構造と機能		講義
6	消化と吸収の異常① 食道癌、胃潰瘍、胃癌、大腸癌		講義
7	消化と吸収の異常② 肝硬変、肝臓癌、膵臓癌、糖尿病		講義
8	体液の調節と尿の生成① 腎臓の構造、尿の生成、腎の血管		講義
9	体液の調節と尿の生成② 糸球体の構造、糸球体濾過とは		講義
10	体液の調節と尿の生成③ 尿細管の構造と機能		講義
11	体液の調節と尿の生成④ 傍糸球体装置、尿の成分の調節		講義
12	体液の調節と尿の生成⑤ 尿管・膀胱・尿道による尿の輸送		講義
13	体液の調節と尿の生成⑥ 脱水、電解質異常、酸塩基平衡		講義
14	尿の生成と排尿の異常 尿検査、腎不全、糖尿病性腎症		講義
15	まとめ、単位認定試験（1H）		
<テキスト> 系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能 1 医学書院 <参考テキスト> ナーシング・グラフィカ 人体の構造と機能① 解剖生理学 MCメディカ出版			
評価方法	筆記試験 100 点		
評価	S:100～90 点 A：89～80 点 B：79～70 点 C：69～60 点 D：59 点以下		

科目名	講義時期	単位（時間）	講 師
形態機能学Ⅳ	1 年次通年	1 単位（30 時間）	看護師として病院勤務有
<学習のねらい> 自律神経系・内分泌系の構造と機能を学び、人体の恒常性を維持するメカニズムについて理解を深める。外部環境からの攻撃より身を守る生体防御機能の仕組みについて学ぶ。			
回	授 業 内 容		授業方法
1	自律神経による臓器機能の調節① 自律神経の機能と構造		講義
2	自律神経による臓器機能の調節② 神経伝達と神経伝達物質		講義
3	内分泌腺による調節の実際① 内分泌器官の種類と構造		講義
4	内分泌腺による調節の実際② 視床下部・下垂体の構造と機能		講義
5	内分泌腺による調節の実際③ 甲状腺、副甲状腺の構造と機能		講義
6	内分泌腺による調節の実際④ 膵臓の構造と機能		講義
7	内分泌腺による調節の実際⑤ 副腎の構造と機能		講義
8	内分泌腺による調節の実際⑥ 性腺(精巣・卵巣)の構造と機能		講義
9	ホルモンによる糖代謝・カルシウム代謝・ストレス調節の実際		講義
10	生体の防御機構① 皮膚・粘膜による非特異的防御の実際		講義
11	生体の防御機構② 非特異的・特異的防御の特徴と担当細胞		講義
12	生体の防御機構③ リンパ球による特異的防御、免疫グロブリン		講義
13	生体の防御機構の異常（アレルギーと免疫不全）		講義
14	生体防衛の関連臓器(リンパ節、扁桃)、体温の分布と調節中枢		講義
15	まとめ、単位認定試験（1H）		
<テキスト> 系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能 1 医学書院 <参考テキスト> ナーシング・グラフィカ 人体の構造と機能① 解剖生理学 MCメディカ出版			
評価方法	筆記試験 100 点		
評価	S:100～90 点 A : 89～80 点 B : 79～70 点 C : 69～60 点 D : 59 点以下		

科目名	講義時期	単位（時間）	講 師
形態機能学Ⅴ	1 年次前期	1 単位（30 時間）	看護師として病院勤務有
<学習のねらい> 脳・脊髄・末梢神経の構造と機能を学び、脳・神経系における情報の受容と処理について理解を深める。骨・関節・骨格筋の構造と機能を学び、からだの支持・姿勢と運動をつかさどる仕組みについて理解を深める。			
回	授 業 内 容		授業方法
1	脳・神経の構造と機能①（神経系の構成・脳の構成）		講義
2	脳・神経の構造と機能②（大脳の働き）		講義
3	脳・神経の構造と機能③（小脳・脳幹のはたらき）		講義
4	脳・神経の構造と機能④（脊髄の構造と機能、髄膜・脊髄液のはたらき）		講義
5	脳・神経の構造と機能⑤（抹消神経の構造と機能、脳・脊髄神経）		講義
6	脳・神経の構造と機能⑥（運動機能と下行伝導路, 感覚機能と上行伝導路）		講義
7	脳・神経の構造と機能⑦（脳・脊髄の血液供給について）		講義
8	骨・関節・筋の構造と機能①（骨格系の概要, 骨組織等）		講義
9	骨・関節・筋の構造と機能②（関節の構造とその機能）		講義
10	骨・関節・筋の構造と機能③（全身の骨格系とその構造と機能）		講義
11	骨・関節・筋の構造と機能④ （筋組織の種類と働き、筋収縮の機序・神経筋接合）		講義
12	骨・関節・筋の構造と機能⑤（全身の骨格と関節運動への作用）		講義
13	骨・関節・筋の構造と機能⑥（全身の骨格と筋のつながり）		講義
14	骨・関節・筋の構造と機能⑦ （日常生活における基本的な運動と骨格・筋肉の作用）		講義
15	まとめ、単位認定試験（1H）		
<テキスト> 系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能1 医学書院 <参考テキスト> ナーシング・グラフィカ 人体の構造と機能① 解剖生理学 MCメディカ出版 カラー人体解剖学 構造と機能 ミクロからマクロまで 監訳 井上貴央 西村書店			
評価方法	筆記試験 100 点		
評価	S:100～90 点 A：89～80 点 B：79～70 点 C：69～60 点 D：59 点以下		

科目名	講義時期	単位（時間）	講 師
形態機能学Ⅵ	1 年次後期	1 単位（30 時間）	看護師として病院勤務有
<学習のねらい> 生殖器系の構造と機能について学び、人体の発生の仕組みについて学ぶ。 感覚器系の構造と機能について学び、感覚器と刺激との関係について学ぶ。 病態学につながるように、脳神経系、循環器系、消化器系の主要臓器が病理的变化で影響した症状等を学ぶ。			
回	授 業 内 容		授業方法
1	生殖器①（男性生殖器の構造と機能）		講義
2	生殖器②（女性生殖器の機能と構造）		講義
3	生殖器③（女性生殖機能における乳腺）		講義
4	生殖器④（女性生殖機能・卵巣周期・月経周期）		講義
5	人体の発生①（生殖細胞と受精、初期発生と着床）		講義
6	人体の発生②（胎児と胎盤）		講義
7	感覚器①（眼の構造と視覚）		講義
8	感覚器②（耳の構造と聴覚・平衡覚）		講義
9	感覚器③（味覚器の構造と味覚）		講義
10	感覚器④（臭覚器の構造と臭覚）		講義
11	感覚器⑤（痛み）		講義
12	脳の構造と機能、病理的变化（萎縮・梗塞・出血等）		講義
13	心臓・肺・腎の構造と機能、病理的变化（梗塞・萎縮・出血）		講義
14	消化器（膵臓・肝臓・小腸・大腸）の構造と機能、病理的变化（腫瘍・潰瘍・出血）		講義
15	まとめ、単位認定試験（1H）		
<テキスト> 系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能 1 医学書院 <参考テキスト> ナーシング・グラフィカ 人体の構造と機能① 解剖生理学 MCメディカ出版 カラー人体解剖学 構造と機能 ミクロからマクロまで 監訳 井上貴央 西村書店			
評価方法	筆記試験 100 点		
評価	S:100～90 点 A: 89～80 点 B: 79～70 点 C: 69～60 点 D: 59 点以下		

科目名	講義時期	単位（時間）	講 師
治療論Ⅰ	1 年次後期	1 単位（15 時間）	看護師として病院勤務有
<学習のねらい> 放射線療法の正しい知識及び治療法を学び、生体への影響について理解し、看護の視点がもてる。 化学療法の正しい知識及び治療法を学び、生体への影響について理解し、看護の視点がもてる。 麻酔法及び疼痛管理、手術療法の基本的知識を学び、生体への理解について理解する。			
回	授 業 内 容		授業方法
1	放射線療法（放射線療法とは、放射線療法と看護、）		講義
2	化学療法①（化学療法とは・特徴・目的、化学療法の作用・副作用）		講義
3	化学療法②（化学療法の流れ、化学療法の実際、）		講義
4	化学療法③（化学療法と看護）		講義
5	麻酔法・術後疼痛管理①（麻酔とは・麻酔の種類）		講義
6	麻酔法・術後疼痛管理②（術後疼痛の発生機序・鎮痛法）		講義
7	手術療法（手術療法の目的と意義、外科的侵襲と生体の反応、術後合併症　）		講義
8	まとめ、単位認定試験　（1 H）		
<テキスト> 系統看護学講座　専門分野　臨床看護総論　基礎看護学4　医学書院 系統看護学講座　別巻　臨床放射線医学　医学書院 ナーシング・グラフィカ　疾病の成り立ちと回復の促進②　臨床薬理学　MCメディカ出版			
評価方法	筆記試験 100 点		
評価	S:100～90 点 A：89～80 点 B：79～70 点 C：69～60 点 D：59 点以下		

科目名	講義時期	単位（時間）	講 師
治療論Ⅱ	1 年次後期	1 単位（30 時間）	管理栄養士・理学療法士 として病院勤務有
<学習のねらい> 食事をすることや栄養について学び、身体のエネルギー源となる食事療法の治療について理解を深める。リハビリテーションの基本的な内容を学び、運動器系・中枢神経系の機能障害を中心と機能訓練と評価方法について理解を深める。協働する多様な職種のアプローチを理解しその連携の必要性を学び、対象への健康回復の支援について理解を深める。			
回	授 業 内 容		授業方法
1	リハビリテーションとは（PT、OT、ST の役割、チーム医療）		講義
2	運動器・中枢神経障害のリハビリテーションと評価法① （機能障害・日常生活動作・社会活動参加等・MMT・ROM）		講義
3	運動器・中枢神経障害のリハビリテーションと評価法② （ポジショニング・ブルンストロームステージ）		講義
4	運動器・中枢神経障害のリハビリテーションと評価法③ （移乗・移動・MMT）		講義 演習
5	中枢神経障害のリハビリテーションと評価法① （摂食・嚥下障害・グレード評価）		講義 演習
6	中枢神経障害のリハビリテーションと評価法② （失語症、失認、失行・SLTA テスト）		講義
7	在宅リハビリテーション（家屋構造・改造・自助具）		講義
8	食とは・栄養とは①（栄養素の働きと分類、食物の消化と栄養素の吸収・代謝、エネルギー代謝）		講義
9	食とは・栄養とは② （食事摂取基準、栄養アセスメント、栄養状態の評価・判定）		講義
10	食とは・栄養とは③（ライフステージと栄養）		講義
11	食とは・栄養とは④（臨床栄養＜栄養補給法、～循環器疾患の食事療法＞）		講義
12	食とは・栄養とは⑤（臨床栄養＜消化器疾患～下痢・便秘＞）		講義
13	食とは・栄養とは⑥（臨床栄養＜糖尿病～腎疾患の食事療法＞）		講義
14	食とは・栄養とは⑦（臨床栄養＜血液疾患～がんの食事療法＞）		講義
15	まとめ、単位認定試験（1H）		
<テキスト> 系統看護学講座 専門基礎分野 栄養学 人体の構造と機能 3 医学書院 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院			
評価方法	筆記試験 100 点		
評価	S:100～90 点 A：89～80 点 B：79～70 点 C：69～60 点 D：59 点以下		

科目名	講義時期	単位（時間）	講 師
薬理学	1 年次後期	1 単位（30 時間）	薬剤師として病院勤務有
<学習のねらい> 臨床における薬物治療に関する基礎的知識（体内動態、作用、副作用、作用機序等）を学び、安全な使用方法・適切な管理方法を学ぶ。			
回	授 業 内 容		授業方法
1	医薬品総論①（看護学生が臨床薬理学を学ぶ意義を含めて）		講義
2	医薬品総論②		講義
3	生活習慣病治療薬①（循環器疾患に使用する薬を含めて）		講義
4	生活習慣病治療薬②（前回の続き、代謝／内分泌疾患に使用する薬を含めて）		講義
5	がん・痛みに使用する薬		講義
6	感染症に使用する薬①		講義
7	感染症に使用する薬②		講義
8	脳・中枢神経系疾患で使用する薬①		講義
9	脳・中枢神経系疾患で使用する薬②		講義
10	周術期・救命救急時に使用する薬（輸血療法を含む）		講義
11	呼吸器・アレルギー・免疫疾患に使用する薬		講義
12	消化器系疾患に使用する薬		講義
13	代謝・内分泌・血液・造血器・腎機能障害に使用する薬		講義
14	泌尿器・生殖器疾患、感覚器疾患に使用する薬		講義
15	まとめ、単位認定試験（1H）		
<テキスト> ナーシング・グラフィカ 疾病の成り立ちと回復の促進② 臨床薬理学 MCメディカ出版			
評価方法	筆記試験 100 点		
評価	S:100～90 点 A：89～80 点 B：79～70 点 C：69～60 点 D：59 点以下		

科目名	講義時期	単位（時間）	講 師
微生物学	1 年次前期	1 単位（15 時間）	薬剤師として病院勤務有
<学習のねらい> 感染症を引き起こす微生物の特性と感染経路の特徴を学ぶ。 人体に侵入する微生物を生体防御する反応を学ぶ。 微生物からの感染を予防する滅菌・消毒方法を学ぶ。			
回	授 業 内 容		授業方法
1	微生物について①（微生物学の学問的位置、歴史、人との関わり）		講義
2	微生物について②（細菌、ウイルスの特性）		講義
3	微生物について③（真菌、原虫の特性）		講義
4	微生物の感染①（感染とは、伝播、要因）		講義
5	微生物の感染②（微生物と宿主の相互反応）		講義
6	滅菌と消毒、検査方法		講義
7	化学療法、感染症の予防		講義
8	まとめ、単位認定試験（1 H）		
<テキスト> 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進 4 微生物学 医学書院			
評価方法	筆記試験 100 点		
評価	S:100～90 点 A : 89～80 点 B : 79～70 点 C : 69～60 点 D : 59 点以下		

科目名	講義時期	単位（時間）	講 師
病理学	1 年次前期	1 単位（15 時間）	臨床検査技師として 病院勤務有
<学習のねらい> 病理学は病気の原因を体の中（臓器、組織、細胞）の変化を通して明らかにし、病気の診断、治療に貢献する学問である。病理学から見た病気とは何かを理解する。			
回	授 業 内 容		授業方法
1	病理学の役割、病気の内因と外因、医原病、疾患の分類		講義
2	先天異常（原因、奇形、遺伝性疾患・染色体異常・胎児傷害）		講義
3	循環障害（浮腫・虚血・充血・うっ血・出血・血栓・塞栓・梗塞）		講義
4	炎症(原因、分類、炎症細胞)と免疫(細胞性・液性免疫、アレルギー)		講義
5	腫瘍① 腫瘍の統計、定義、分類、発生因子、腫瘍の広がり		講義
6	腫瘍② 腫瘍の発生機序、細胞診断と組織診断、腫瘍マーカー		講義
7	細胞・組織の障害(萎縮、変性、壊死、老化と死)、肉芽と瘢痕		講義
8	まとめ、単位認定試験（1H）		
<テキスト> 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進 1 病理学 医学書院 講師作成資料、小テスト問題			
評価方法	筆記試験 100 点		
評価	S:100～90 点 A：89～80 点 B：79～70 点 C：69～60 点 D：59 点以下		

科目名	講義時期	単位（時間）	講 師
病態生理学Ⅰ	1 年次通年	1 単位（30 時間）	医師・臨床検査技師 として病院勤務有
<学習のねらい> 臨床検査の意義、種類、検査値の臨床病理的意味・解釈方法を学ぶ。 循環器疾患における原因やなりたちのメカニズムを学び、その背後にある問題を明らかにすることで、治療や援助にどう繋げるかを考える根拠とする。 循環器疾患の主な検査・治療について学ぶ。			
回	授 業 内 容		授業方法
1	臨床検査について		講義
2	血液（血球・凝固系）、尿、便、髄液・穿刺検査		講義
3	生化学、免疫血清検査、輸血検査		講義
4	微生物検査、病理学的検査（感染症検査）		講義
5	生理機能検査（脳波、心電図、呼吸機能、超音波検査）		講義
6	循環器疾患の病態生理、症状と検査・治療①（循環器疾患、高血圧）		講義
7	循環器疾患の病態生理、症状と検査・治療②（虚血性心疾患）		講義
8	循環器疾患の病態生理、症状と検査・治療④（弁膜症）		講義
9	循環器疾患の病態生理、症状と検査・治療⑤（心不全）		講義
10	循環器疾患の病態生理、症状と検査・治療⑥（不整脈）		講義
11	循環器疾患の病態生理、症状と検査・治療⑦（心筋疾患、心膜疾患、循環器疾患まとめ）		講義
12	動脈系疾患（大動脈瘤、解離性大動脈瘤・閉塞性疾患）		講義
13	静脈系疾患（静脈血栓症、静脈瘤、肺塞栓症）		講義
14	心臓血管手術と術後の管理（冠状動脈バイパス術）		講義
15	まとめ、単位認定試験（1 H）		
<テキスト> 系統看護学講座 別巻 臨床検査 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学3 循環器 医学書院			
評価方法	筆記試験 100 点		
評価	S:100～90 点 A：89～80 点 B：79～70 点 C：69～60 点 D：59 点以下		

科目名	講義時期	単位（時間）	講 師
病態生理学Ⅱ	1 年次通年	1 単位（30 時間）	医師として病院勤務有
<学習のねらい> 血液・造血器疾患、呼吸器疾患における原因やなりたちのメカニズムを学び、その背後にある問題を明らかにすることで、治療や援助にどう繋げるかを考える根拠とする。 血液・造血器疾患、呼吸器疾患の主な検査・治療について学ぶ。			
回	授 業 内 容		授業方法
1	呼吸器疾患の病態生理、症状と検査・治療①（診察と診断の流れ）		講義
2	呼吸器疾患の病態生理、症状と検査・治療②（主要症状）		講義
3	呼吸器疾患の病態生理、症状と検査・治療③（肺炎、気管支炎、気管支拡張症）		講義
4	呼吸器疾患の病態生理、症状と検査・治療④（気管支喘息）		講義
5	呼吸器疾患の病態生理、症状と検査・治療⑤（慢性閉塞性疾患）		講義
6	呼吸器疾患の病態生理、症状と検査・治療⑥（呼吸不全）		講義
7	呼吸器疾患の病態生理、症状と検査・治療⑦（肺がん）		講義
8	呼吸器疾患の病態生理、症状と検査・治療⑧（開胸術、肺切除術の管理）		講義
9	呼吸器疾患の病態生理、症状と検査・治療⑨（気胸、過換気症候群）		講義
10	血液・造血器疾患の病態生理、症状と検査・治療① （鉄欠乏性貧血、再生不良性貧血、悪性貧血）		講義
11	血液・造血器疾患の病態生理、症状と検査・治療②（紫斑病）		講義
12	血液・造血器疾患の病態生理、症状と検査・治療③（悪性リンパ腫）		講義
13	血液・造血器疾患の病態生理、症状と検査・治療④（白血病）		講義
14	血液・造血器疾患の病態生理、症状と検査・治療⑤（HIV 感染、エイズ）		講義
15	まとめ、単位認定試験（1 H）		
<テキスト> 系統看護学講座 専門分野 成人看護学4 血液・造血器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学2 呼吸器 医学書院			
評価方法	筆記試験 100 点		
評価	S:100～90 点 A：89～80 点 B：79～70 点 C：69～60 点 D：59 点以下		

科目名	講義時期	単位（時間）	講 師
病態生理学Ⅲ	1 年次通年	1 単位（30 時間）	医師として病院勤務有
<学習のねらい> 消化器疾患、自己免疫疾患における原因やなりたちのメカニズムを学び、その背後にある問題を明らかにすることで、治療や援助にどう繋がるかを考える根拠とする。 消化器疾患、自己免疫疾患の主な検査・治療について学ぶ。			
回	授 業 内 容		授業方法
1	消化器疾患の病態生理、症状と検査と治療①（診察と診断の流れ、主要症状）		講義
2	消化器疾患の病態生理、症状と検査と治療②（胃食道逆流症、胃・十二指腸潰瘍）		講義
3	消化器疾患の病態生理、症状と検査と治療③（クローン病、潰瘍性大腸炎）		講義
4	消化器疾患の病態生理、症状と検査と治療④（膵炎、胆石、胆のう炎）		講義
5	消化器疾患の病態生理、症状と検査と治療⑤（肝炎）		講義
6	消化器疾患の病態生理、症状と検査と治療⑥（肝硬変、肝がん）		講義
7	消化器疾患の病態生理、症状と検査と治療⑦（食道がん）		講義
8	消化器疾患の病態生理、症状と検査と治療⑧（胃がん）		講義
9	消化器疾患の病態生理、症状と検査と治療⑨（膵臓癌）		講義
10	消化器疾患の病態生理、症状と検査と治療⑩（胆嚢胆管がん）		講義
11	消化器疾患の病態生理、症状と検査と治療⑪（大腸がん）		講義
12	消化器疾患の病態生理、症状と検査と治療⑫（イレウス、腹膜炎）		講義
13	自己免疫疾患の病態生理、症状と検査・治療① （アレルギー・免疫・膠原病）		講義
14	自己免疫疾患の病態生理、症状と検査・治療② （全身性エリテマトーデス、関節リウマチ）		講義
15	まとめ、単位認定試験（1 H）		
<テキスト> 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 5 消化器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 1 1 アレルギー 膠原病 感染症 医学書院			
評価方法		筆記試験 100 点	
評価		S:100～90 点 A：89～80 点 B：79～70 点 C：69～60 点 D：59 点以下	

科目名	講義時期	単位（時間）	講 師
病態生理学Ⅳ	1 年次通年	1 単位（30 時間）	医師として病院勤務有
<学習のねらい> 腎・泌尿器系、生殖器系、内分泌・代謝系疾患における原因やなりたちのメカニズムを学び、その背後にある問題を明らかにすることで、治療や援助にどう繋げるかを考える根拠を知る。 腎・泌尿器系、生殖器系、内分泌・代謝系の主な検査・治療について学ぶ。			
回	授 業 内 容		授業方法
1	腎・泌尿器疾患の病態生理、症状と検査・治療①（糸球体腎炎）		講義
2	腎・泌尿器疾患の病態生理、症状と検査・治療②（ネフローゼ症候群）		講義
3	腎・泌尿器疾患の病態生理、症状と検査・治療③（腎不全、慢性腎臓病）		講義
4	腎・泌尿器疾患の病態生理、症状と検査・治療④（腎不全と透析療法）		講義
5	腎・泌尿器疾患の病態生理、症状と検査・治療⑤（尿路感染症、尿路結石、前立腺肥大症）		講義
6	腎・泌尿器疾患の病態生理、症状と検査・治療⑥（膀胱がん、睾丸腫瘍）		講義
7	女性生殖器疾患の病態生理、症状と検査・治療①（卵巣嚢腫、卵巣がん、子宮筋腫、子宮がん、胎状奇胎）		講義
8	女性生殖器疾患の病態生理、症状と検査・治療②（性感染症）		講義
9	女性生殖器疾患の病態生理、症状と検査・治療③（乳がん）		講義
10	内分泌・代謝疾患の病態生理、症状と検査・治療①（尿崩症、巨人症・先端巨大症）		講義
11	内分泌・代謝疾患の病態生理、症状と検査・治療②（バセドウ病、副甲状腺機能亢進症・低下症、腫瘍）		講義
12	内分泌・代謝疾患の病態生理、症状と検査・治療③（アルドステロン症、アジソン病、クッシング症候群、褐色細胞腫）		講義
13	内分泌・代謝疾患の病態生理、症状と検査・治療④（糖尿病）		講義
14	内分泌・代謝疾患の病態生理、症状と検査・治療⑤（痛風）		講義
15	まとめ、単位認定試験（1 H）		
<テキスト> 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 8 腎・泌尿器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 9 女性生殖器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 6 内分泌・代謝 医学書院			
評価方法	筆記試験 100 点		
評価	S:100～90 点 A：89～80 点 B：79～70 点 C：69～60 点 D：59 点以下		

科目名	講義時期	単位（時間）	講 師
病態生理学Ⅴ	1 年次後期	1 単位（30 時間）	医師として病院勤務有
＜学習のねらい＞ 脳・神経系疾患、運動器系疾患、感覚器疾患における原因やなりたちのメカニズムを学び、その背後にある問題を明らかにすることで、治療や援助にどう繋がるかを考える根拠とする。 脳・神経疾患、運動器疾患、感覚器疾患の主な検査・治療について学ぶ。			
回	授 業 内 容		授業方法
1	脳・神経疾患の病態生理、症状と検査・治療①（脳梗塞、慢性虚血性発作、高血圧性脳症）		講義
2	脳・神経疾患の病態生理、症状と検査・治療②（脳腫瘍、くも膜下出血、脳内出血）		講義
3	脳・神経疾患の病態生理、症状と検査・治療③（頭部外傷）		講義
4	脳・神経疾患の病態生理、症状と検査・治療④（脊髄炎、ギランバレー症候群、重症筋無力症）		講義
5	脳・神経疾患の病態生理、症状と検査・治療⑤（進行性筋ジストロフィー、筋萎縮性側索硬化症）		講義
6	脳・神経疾患の病態生理、症状と検査・治療⑥（多発性硬化症、パーキンソン病・症候群）		講義
7	運動器疾患の病態生理、症状と検査・治療 ①（骨折・脱臼の分類、治癒過程 大腿骨・脛骨・鎖骨骨折、 肩関節 肘関節 ）		講義
8	運動器疾患の病態生理、症状と検査・治療 ②（骨・関節の炎症性疾患 リウマチ 膝関節 股関節）		講義
9	運動器疾患の病態生理、症状と検査・治療③（骨腫瘍、脊髄損傷）		講義
10	運動器疾患の病態生理、症状と検査・治療④ （脊椎系疾患 脊柱管狭窄症 椎間板ヘルニア 頸椎後縦靱帯骨化症）		講義
11	感覚器疾患の病態生理、症状と検査・治療① （白内障・緑内障、糖尿病性網膜症）		講義
12	感覚器疾患の病態生理、症状と検査・治療② （突発性難聴、メニエル病、咽頭疾患）		講義
13	感覚器疾患の病態生理、症状と検査・治療③（上顎腫瘍）		講義
14	感覚器疾患の病態生理、症状と検査・治療④（齲歯、歯周病）		講義
15	まとめ、単位認定試験（1H）		
＜テキスト＞ 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 7 脳・神経 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 1 0 運動器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 1 3 眼 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 1 4 耳鼻咽喉 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 1 5 歯・口腔 医学書院			
評価方法	筆記試験 100 点		
評価	S:100～90 点 A：89～80 点 B：79～70 点 C：69～60 点 D：59 点以下		

科目名	講義時期	単位（時間）	講 師
精神病態学	2 年次前期	1 単位（15 時間）	医師として病院勤務有
<学習のねらい> 主な精神疾患の病態、症状、治療について理解し、対象のアセスメントができる基礎知識を学習する。			
回	授 業 内 容		授業方法
1	精神疾患の病態・症状（総論）		講義
2	統合失調症		講義
3	気分障害（躁鬱病）		講義
4	神経性障害と適応障害（摂食障害、思春期精神障害）		講義
5	人格障害、てんかん		講義
6	発達遅滞、発達障害		講義
7	認知症、外傷後ストレス障害（PTSD） 精神疾患の主な検査や治療（知能検査、心理検査、精神療法等）		講義
8	まとめ、単位認定試験（1H）		
<テキスト> 系統看護学講座 専門分野 精神看護学 1 精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 専門分野 精神看護学 2 精神看護の展開 医学書院			
評価方法	筆記試験 100 点		
評価	S:100～90 点 A：89～80 点 B：79～70 点 C：69～60 点 D：59 点以下		

科目名	講義時期	単位（時間）	講 師
看護と法律	3 年次後期	1 単位（15 時間）	
<学習のねらい> 健康を支援する法律や、看護活動にかかわる法律を学び、看護職の責務・業務・役割について理解する。			
回	授 業 内 容		授業方法
1	法律の基礎知識		講義
2	紛争解決について		講義
3	医療法規		講義
4	予防衛生法規		講義
5	保健衛生、環境衛生法規		講義
6	社会福祉関係法規		講義
7	労働関係法規		講義
8	まとめ、単位認定試験（1H）		
<テキスト> 系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度 4 看護関係法令 医学書院			
評価方法	筆記試験 100 点		
評価	S:100～90 点 A：89～80 点 B：79～70 点 C：69～60 点 D：59 点以下		

科目名	講義時期	単位（時間）	講 師
社会保障論	2 年次前期	1 単位（15 時間）	
<学習のねらい> 看護師として必要な社会保障制度と社会福祉を学習し、今後のケアや地域の関係機関などと連携する基礎知識を理解する。			
回	授 業 内 容		授業方法
1	社会保障制度と社会福祉		講義
2	医療保障①		講義
3	医療保障②		講義
4	介護保障		講義
5	所得補償と公的扶助		講義
6	福祉制度		講義
7	児童家庭福祉と多職種連携		講義
8	まとめ、単位認定試験（1H）		
<テキスト> 系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度 3 社会保障・社会福祉 医学書院			
評価方法	筆記試験 70 点 レポート 30 点		
評価	S:100～90 点 A：89～80 点 B：79～70 点 C：69～60 点 D：59 点以下		

科目名	講義時期	単位（時間）	講 師
総合医療論	3 年次通年	1 単位（15 時間）	医師として病院勤務有
<学習のねらい> 医療の変遷、生活者が健康を確保するためのしくみ、医療を受ける側の意識変革など、医療をとりまく今日的課題の学習を通し、医療・看護の原点に立ち返り、看護師の果たすべき具体的な役割を理解する。			
回	授 業 内 容		授業方法
1	1 章 医療の基本① 人道主義 人権 倫理		講義
2	医療の基本② チーム医療 自己決定 医療者の責務		講義
3	2 章 健康とは：多様な健康観と医療観 ヘルスプロモーション well-being の捉え方 well-being 構成要素と支援 保健医療が追求する価値と医療職の役割		講義
4	3 章 医療の変遷 ：近代医学の誕生と感染対策 生活習慣病 ゲノム医学 健康影響をもたらす環境問題 薬害について		講義
5	補完代替療法と総合医療 臓器移植から再生医療へ 健康を次世代へつなぐ 科学的根拠とこれからの医療		講義
6	4 章 医療システム：医療の機能分化と地域医療連携 地域包括システムと 他職種の連携 医療・介護保険制度 医療と経済		講義
7	なぜ災害医療を学ぶのか 健康課題の国際化と SDGs 医療安全と医療職に求められる態度		講義
8	まとめ、単位認定試験（1H）		
<テキスト> 学生のための医療概論 医学書院			
評価方法		筆記試験 100 点	
評価		S:100～90 点 A：89～80 点 B：79～70 点 C：69～60 点 D：59 点以下	

科目名	講義時期	単位（時間）	講 師
健康と教育	3 年次前期	1 単位（15 時間）	看護師として病院勤務有
<学習のねらい> 教育の基本と健康行動学習の理論を学び、看護における教育・指導およびセルフケア能力を高めるための意義・方法等を理解する。			
回	授 業 内 容		授業方法
1	教育とは（教育の意義・目的・教育方法の基本）		講義
2	健康行動学習の理論① （ストレス・コーピング・セルフケア・エンパワーメント）		講義
3	健康行動学習の理論②（アンドラゴジー・アドヒアランス）		講義
4	健康教育・指導①（患者・家族・医療従事者）		講義
5	健康教育・指導②（家庭・食品の生活環境）		講義
6	健康教育・指導③（職場環境）		講義
7	健康教育・指導④（大気・騒音等の地域環境）		講義
8	まとめ、単位認定試験（1H）		
<テキスト> 講師作成資料配布			
評価方法	筆記試験 100 点		
評価	S:100～90 点 A：89～80 点 B：79～70 点 C：69～60 点 D：59 点以下		

科目名	講義時期	単位（時間）	講 師
医療倫理	3 年次通年	1 単位（15 時間）	
<学習のねらい> 生命科学の進歩や社会変化によってもたらされる倫理的課題の事例を通じて、生命倫理の基本的な知識を学ぶ。			
回	授 業 内 容		授業方法
1	医療倫理とは、医療倫理の変遷		講義
2	解決に向けての方法		講義
3	終末期医療と安楽死		講義
4	脳死と臓器移植		講義
5	生殖医療		講義
6	出生前診断と人工妊娠中絶		講義
7	遺伝子診断と再生医療		講義
8	まとめ、単位認定試験（1H）		
<テキスト> 講師作成資料配布			
評価方法	筆記試験 100 点		
評価	S:100～90 点 A：89～80 点 B：79～70 点 C：69～60 点 D：59 点以下		

科目名	講義時期	単位（時間）	講 師
看護と公衆衛生	2 年次通年	1 単位（15 時間）	
＜学習のねらい＞ 人々の健康が自然・社会・文化的環境により影響を受けていることを理解し、人々の生涯にわたる健康に関する諸制度と、疾病予防と健康づくりのための対策について学ぶ。			
回	授 業 内 容		授業方法
1	公衆衛生とは（予防、ヘルスプロモーション等）		講義
2	感染症とその予防		講義
3	環境と健康、食品保健		講義
4	産業保健		講義
5	母子保健、学校保健		講義
6	成人保健、高齢者保健		講義
7	精神保健、地域保健		講義
8	まとめ、単位認定試験（1H）		
＜テキスト＞ 系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度 2 公衆衛生 医学書院 国民衛生の動向 厚生統計協会			
評価方法	筆記試験 100 点		
評価	S:100～90 点 A：89～80 点 B：79～70 点 C：69～60 点 D：59 点以下		

科目名	講義時期	単位（時間）	講 師
看護学概論	1 年次前期	1 単位（30 時間）	看護師として病院勤務有
<学習のねらい> 看護学を初めて学ぶ人にとってガイダンスとなる科目であり、学習を通して看護学に対する興味や関心が持てることを目指す。看護の基本概念と役割、対象について学ぶ。 医療に従事する者は、対象を尊重し、倫理観を高める責任があることを理解する。			
回	授 業 内 容		授業方法
1	看護とは、看護師の仕事とは		講義
2	看護の歴史		講義
3	健康とは		講義
4	健康と病気の違いはどんなことか		講義
5	看護の対象となる人たち		講義
6	家族と健康 国民の健康とは		講義
7	看護師の資格養成制度と就業状況		講義
8	看護実践と看護理論①		講義
9	看護実践と看護理論②		講義
10	看護をめぐる制度と政策		講義
11	看護実践と看護理論③		講義
12	看護における倫理		講義
13	チーム医療と看護		講義
14	看護の活動領域と専門性		講義
15	まとめ、単位認定試験（1H）		
<テキスト> 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学1 看護学概論 医学書院 ヴァージニア・ヘンダーソン著、湯楨ます・小玉香津子訳：看護の基本となるもの、日本看護協会出版会 フローレンス・ナティンゲール著、小玉香津子・尾田・葉子訳：看護覚え書き、本当の看護とそうでない看護、日本看護協会出版会			
評価方法	筆記試験 80 点 レポート 20 点 （柳谷 10 点、西浜 10 点）		
評価	S:100～90 点 A：89～80 点 B：79～70 点 C：69～60 点 D：59 点以下		

科目名	講義時期	単位（時間）	講 師
看護基本技術Ⅰ 看護の対象理解	1 年次前期	1 単位（15 時間）	看護師として病院勤務有
<学習のねらい> 1. コミュニケーションの特徴と、医療におけるコミュニケーションの重要性を理解する。 2. コミュニケーションの構成要素と成立過程を理解し、ミスコミュニケーションを避け、適切なメッセージを伝える方法を学ぶ。 3. コミュニケーションの基本的な方法について学び、それを実践できる。 4. コミュニケーション障害がある人の特徴と効果的な対応を学ぶ。			
回	授 業 内 容		授業方法
1	・コミュニケーションの意義と目的 1) コミュニケーションとは 2) 看護・医療でコミュニケーションを学ぶ意義 3) 対人関係の成立に不可欠な要件 自己理解・他者理解		講義
2	・コミュニケーションの構成要素と成立過程 1) コミュニケーションの手段 2) 構成要素と成立過程		講義
3	3) ミスコミュニケーション ①事例紹介		講義 ワーク
4	4) 看護専門職として備えるべきコミュニケーション能力向上のために ②プロセスレコード「患者との相互作用を振り返る」		講義 ワーク
5	・関係構築のためのコミュニケーションの基本 1) 接近的コミュニケーションの原理 2) 接近的行動の前提となる基本的な態度 3) 接近的行動と非接近的行動 4) 接近的コミュニケーションを成立させるためには		講義
6	・効果的なコミュニケーションの実際 1) 傾聴の技術 2) 情報収集の技術 3) 説明の技術 4) アサーティブネス		講義 ワーク
7	・コミュニケーションに障害がある人への対応 1) コミュニケーションに障害がある人の特徴 2) 言語的コミュニケーションに必要な身体機能 3) コミュニケーションの障害がある人への対応		講義 ワーク
8	まとめ、単位認定試験（1H）		
<テキスト> 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学Ⅱ 基礎看護技術Ⅰ 医学書院			
評価方法		筆記試験 100 点	
評価		S:100～90 点 A：89～80 点 B：79～70 点 C：69～60 点 D：59 点以下	

科目名		講義時期	単位（時間）	講 師
看護基本技術Ⅱ 感染予防、医療安全、安楽の確保		1 年次前期	1 単位（30 時間）	看護師として病院勤務有
＜学習のねらい＞ 1. 看護技術の特徴と技術を適切に実践するための基本を学ぶ。 2. 感染と感染予防策の概要、感染予防における看護師の責務と役割を学ぶ。 3. ヒューマンエラーによる事故の発生要因、事故防止策の基本を学ぶ。 4. 看護における安楽の意義を理解し、安楽な体位を保持する方法を学ぶ。				
回	授 業 内 容			授業方法
1	・看護技術を学ぶにあたって ・看護技術を適切に実践するための要素 ・安楽確保の技術 1) 看護における安楽の意義 2) 安楽な体位の保持			講義
2	・ボディメカニクス 演習① 基本的な体位の調整			講義 演習
3	演習② 安楽な体位の調整 演習③ ボディメカニクスを活用した体位変換			
4	・安全確保の技術 1) 安全確保の基礎知識 ①医療安全と看護職者の役割 ②医療事故と医療過誤			講義
5	2) 誤薬防止 ①誤薬防止の基礎知識 ②誤薬防止の基礎知識 3) ライン・チューブ類の事故防止			講義
6	4) 患者誤認防止 ①患者誤認防止の基礎知識 ②患者誤認防止の実際			講義
7	5) 転倒・転落防止 ①転倒・転落の基礎知識 ②転倒・転落の実際			
8	6) 療養環境における危険防止 7) 薬剤・放射線曝露の防止			講義
9	・感染防止の技術 1) 感染とその予防の基礎知識			講義
10	2) 標準予防策			
11	3) 感染経路別予防策 4) 洗浄・消毒・滅菌			講義 演習
12	演習④ スタンダードプリコーションに基づく手洗い 演習⑤ 必要な防御用具の選択・着脱			
13	5) 無菌操作 6) 感染性廃棄物の取り扱い			講義 演習
14	7) 針刺し防止策 8) 医療施設における感染管理 演習⑥ 滅菌物の取り扱い			
15	まとめ、単位認定試験（1H）			
＜テキスト＞ 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 2・3 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ 医学書院 ＜参考テキスト＞ 看護がみえる vol.1 基礎看護技術 メディックメディア				
評価方法		筆記試験 100 点		
評価		S:100～90 点 A：89～80 点 B：79～70 点 C：69～60 点 D：59 点以下		

科目名	講義時期	単位（時間）	講 師
看護基本技術Ⅲ 環境調整	1 年次前期	1 単位（30 時間）	看護師として病院勤務有
<学習のねらい> 1. 環境にはどのような要素があるのか理解し、その調整のしかたを学ぶ。 2. 空調、照明、換気、プライバシーの保護など病室における環境調整の方法を学ぶ。 3. 人間の健康状態に応じた環境調整および快適な療養環境の実際を学ぶ。 4. 基本的なベッドメイキングおよび臥床患者のリネン交換の方法を学び実践できる。			
回	授 業 内 容		授業方法
1	環境調整技術 ・療養生活の環境 ・病室の環境のアセスメントと調整		講義
2	・ベッド周囲の環境整備 ・病床を整える ・ベッドメイキングの方法と実際 1) クローズドベッドの作成方法 2) オープンベッドの作成方法		講義
3	演習① ベッドの取り扱い（高さ調整、ストッパー・柵、オーバーテーブル）		講義 演習
4	演習② 患者体験（カーテン、音など） 演習③ ベッドメイキング ・病院見学について		
5	演習④ 病院見学 〔病院を知る〕		演習
6			
7	演習⑤ 病院見学の振り返りと発表		演習
8			
9	・臥床患者のリネン交換の方法と実際 1) 臥床患者のリネン交換の方法		講義 演習
10	演習⑥ 臥床患者のリネン交換		
11	ベッドメイキング技術チェックについて		演習
12	演習⑦ ベッドメイキング		
13	ベッドメイキング 技術チェック		演習
14			
15	まとめ、単位認定試験（1H）		
<テキスト> 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学3 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 <参考テキスト> 看護がみえる vol.1 基礎看護技術 メディックメディア			
評価方法		筆記試験 80 点 病院見学レポート 20 点	
評価		S:100～90 点 A: 89～80 点 B: 79～70 点 C: 69～60 点 D: 59 点以下	

科目名	講義時期	単位（時間）	講 師
看護基本技術Ⅳ フィジカルアセスメント	1 年次後期	1 単位 (30 時間)	看護師として病院勤務有
<学習のねらい> 1. フィジカルアセスメントに必要な体表解剖の基礎を学ぶ。 2. フィジカルアセスメントの技法、標準的な身体計測の方法を学ぶ。 3. バイタルサインの意義、測定方法およびアセスメントのポイントを学ぶ。 4. 全身の系統的なフィジカルイグザミネーションの実際を学ぶ。 5. 収集した情報から考えられることを整理し、状況に適した観察・測定を行うための考え方と方法を学ぶ。			
回	授 業 内 容		授業方法
1	・ヘルスアセスメントとは ・フィジカルイグザミネーションとフィジカルアセスメント ・臨床推論とは ・ヘルスアセスメントにおける観察		講義
2	・健康歴とセルフケア能力のアセスメント ・フィジカルアセスメントに必要な技術 1)問診 2)視診 3) 触診 4)打診 5)聴診		講義 ワーク
3	・バイタルサインとは		講義
4	1)体温・脈拍・呼吸・血圧・意識の基礎知識		演習
5	・バイタルサインの測定		演習
6	演習① 体温・脈拍・呼吸の測定、測定結果の記録 ② 血圧（触診法・聴診法）の測定、測定結果の記録		
7	系統別フィジカルアセスメント		講義 演習
8	1) 呼吸器系の基礎知識 演習③ 正常呼吸音の聴診部位と呼吸音の聴診		
9	2) 循環器系の基礎知識		講義 演習
10	演習④ 循環器系の視診・触診・聴診（正常心音の聴診部位・心音の聴診）		
11	3) 消化器系の基礎知識		講義 演習
12	演習⑤ 聴診（腸蠕動音の聴取）・打診・触診 4) 筋・骨格系の基礎知識		
13	5) 感覚系の基礎知識 6) 頭頸部のフィジカルイグザミネーションとアセスメント 7) 神経系の基礎知識 8) 神経系のフィジカルイグザミネーションとアセスメント		講義
14	演習⑥ バイタルサイン（体温・脈拍・呼吸・血圧）の測定		演習
15	まとめ、実技試験、単位認定試験（1H）		
<テキスト> 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学3 基礎看護技術Ⅰ 医学書院			
評価方法	筆記試験 60 点 実技試験 40 点		
評価	S:100～90 点 A: 89～80 点 B: 79～70 点 C: 69～60 点 D: 59 点以下		

科目名		講義時期	単位（時間）	講師
日常生活援助技術Ⅰ		1 年次前期	1 単位（30 時間）	看護師として病院勤務有
＜学習のねらい＞ 人間の健康状態に応じた日常生活行動（活動・休息）を理解し、原理原則をふまえた基本技術を学ぶ。 人間の基本的欲求である身体の清潔、身支度を健康状態に応じて、安全・安楽に実施できるように基本的な技術を学ぶ。				
回	授 業 内 容			授業方法
1	清潔・衣生活の援助技術 ・ 清潔の援助の基礎知識 ・ 清潔の援助の実際 1) 入浴・シャワー浴 2) 全身清拭 病床での衣生活の援助 ・ 援助の基礎知識			講義
2 3	演習① 全身清拭（湯温調整、臥床患者の寝衣交換）			演習
4 5	3) 陰部洗浄 演習② 臥床患者の陰部洗浄			講義 演習
6	4) 足浴、手浴			講義
7 8	演習③ 臥床患者の足浴、爪切り			演習
9	5) 洗髪 6) 口腔ケア			講義
10 11	演習④ 臥床患者の洗髪			演習
12	活動・休息援助技術 ・ 基本的活動の援助（体位変換、歩行、移乗、移送） ・ 睡眠休息の援助			講義
13	演習⑤ 車椅子・ストレッチャーへの移乗・移送			演習
14	演習⑥ 事例をもとに必要な援助を考えて実施する			演習
15	まとめ、単位認定試験（1H）			
＜テキスト＞ 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学3 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 ＜参考テキスト＞ 看護がみえる vol.1 基礎看護学技術 メディックメディア ＜学習にあたって＞ 各々の援助をするにあたって、生理学的な機能から援助の必要性を理解しましょう。				
評価方法		筆記試験 100 点		
評価		S:100～90 点 A：89～80 点 B：79～70 点 C：69～60 点 D：59 点以下		

科目名	講義時期	単位（時間）	講 師
日常生活援助技術Ⅱ	1 年次後期	1 単位（30 時間）	看護師として病院勤務有
<学習のねらい> 人間の健康状態に応じた、栄養と食行動を考慮し、安全な食事援助を実施する技術を学ぶ。 人間の健康状態に応じた、安全で羞恥心に配慮した、排泄の援助を実施する技術を学ぶ。			
回	授 業 内 容		授業方法
1 2	食事援助技術 ・ 食事援助の基礎知識 1) 栄養状態および摂取能力、食欲や食に対する認識のアセスメント 2) 医療施設で提供される食事の種類と形態 ・ 非経口的栄養摂取の援助 1) 経管栄養法 2) 中心静脈栄養法 ・ 食事摂取の介助		講義
3	ワーク① 自分の食事内容と栄養状態をグループで評価する		ワーク
4 5	演習① 誤嚥防止に留意した食事介助		演習
6	排泄援助技術 ・ 自然排尿及び自然排便の介助 1) トイレにおける排泄介助 2) 床上排泄援助 3) おむつによる排泄援助		講義
7	演習② 1. 紙おむつ・尿取りパットの取り扱い 2. おむつ交換 3. 尿器・便器の挿入		演習
8	・ 導尿 1) 一時的導尿の基礎知識と援助の実際 2) 持続的導尿の基礎知識と援助の実際		講義
9 10	演習③ 一次的導尿の援助		演習
11	演習④ 持続導尿中の患者の援助		演習
12	・ 排便を促す援助 1) 排便を促す援助の基礎知識 2) 浣腸		講義
13 14	演習⑤ 浣腸による排便の援助		演習
15	まとめ、単位認定試験（1H）		
<テキスト> 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 3 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 <参考テキスト> 看護がみえるvol.1基礎看護学技術 メディックメディア <学習にあたって> 解剖生理学：人体の構造と機能①の消化器系・腎臓系を復習すること。			
評価方法		筆記試験 100 点	
評価		S:100～90 点 A：89～80 点 B：79～70 点 C：69～60 点 D：59 点以下	

科目名	講義時期	単位（時間）	講 師
診療に伴う技術Ⅰ	1 年次後期	1 単位（30 時間）	看護師として病院勤務有
<学習のねらい> 1. 皮膚の構造、創傷の種類および治癒過程など創傷の基礎知識を理解する。 2. 手順に基づいた創傷管理技術を学ぶ。 3. 罨法による体温管理・保温の意義が理解できる。 4. 呼吸、循環の生理的メカニズムを理解する。 5. 呼吸、循環を確保する技術を手順に基づいて実践できる。			
回	授 業 内 容		授業方法
1	体温管理の技術		講義
2 3	演習① 冷罨法・温罨法		演習
4	創傷管理技術 ・創傷管理の基礎知識 ・褥瘡予防		講義
5	・創傷処置（創洗浄、創保護、包帯法）		講義
6	演習② 包帯法		演習
7 8	呼吸・循環を整える技術 ・呼吸の意義とアセスメント ・呼吸を楽にする姿勢と呼吸法		講義
9	・酸素療法(酸素吸入療法)		講義
10	演習③ 酸素吸入療法（中央配管・酸素ボンベの取扱い）		演習
11	・排痰ケア 1) 吸入 2) 吸引 3) 体位ドレナージ		講義
12 13	演習④ 口腔・鼻腔吸引		演習
14	演習⑤ 体位ドレナージ		演習
15	まとめ、単位認定試験（1H）		
<テキスト> 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学3 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 <参考テキスト> 看護がみえる vol.1 基礎看護学技術 メディックメディア			
評価方法		筆記試験 100 点	
評価		S:100～90 点 A：89～80 点 B：79～70 点 C：69～60 点 D：59 点以下	

科目名	講義時期	単位（時間）	講 師
診療に伴う技術Ⅱ	1 年次後期	1 単位 (30 時間)	看護師として病院勤務有
<学習のねらい> 1. 臨床で行われている検査について学ぶ。 2. 薬物療法の種類・目的・方法・技術を学ぶ。 3. 検査に伴う看護師の役割、薬物療法における看護師の役割について学ぶ。			
回	授 業 内 容		授業方法
1	症状・生体機能管理技術 ・検体検査：血液・尿・便・喀痰など ・生体情報のモニタリング（心電図モニター・SpO2 モニターなど） 診察・検査・処置における技術 ・検査・処置の介助		講義
2	血液検査 ・注射の基礎知識（注射の方法と種類・注射筒と注射針・実施上の責任） ・静脈血採血 ・動脈血採血		講義
3 4	演習① 採血用ホルダーを用いた静脈血採血の実施（シミュレーター使用）		演習
5 6	演習② 注射器を用いた静脈血採血（シミュレーター使用）		演習
7 8	与薬の技術 ・薬物の基本的性質 ・看護師の役割 1)経口与薬・口腔内与薬 2)吸入 3)点眼 4)点鼻 5)経皮的与薬 6)直腸内与薬		講義
9 10	7)各注射方法 8)輸液ポンプ、シリンジポンプ 9)輸血療法		講義
11 12	演習③ 薬液の吸い上げ（アンプルの薬液を吸い上げる） 演習④ 筋肉内注射（三角筋）（シミュレーター使用）		演習
13 14	演習⑤ 薬液の吸い上げ（バイアルの溶解と薬液の吸い上げ） 演習⑥ 点滴静脈内注射の準備、滴下速度の計算と調整		演習
15	まとめ、単位認定試験（1H）		
<テキスト> 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 3 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 <参考テキスト> 看護がみえる vol.1・2 基礎看護学技術 メディックメディア			
評価方法		筆記試験 100 点	
評価		S:100～90 点 A：89～80 点 B：79～70 点 C：69～60 点 D：59 点以下	

科目名	講義時期	単位（時間）	講 師
看護過程	1 年次後期	1 単位（30 時間）	看護師として病院勤務有
<学習のねらい> 看護過程を学習する意義を考え、対象にとってより良い看護援助を行うために必要なアセスメント、看護問題の明確化、看護計画の立案、実施、評価の一連の流れを学ぶ。			
回	授 業 内 容	授業方法	
1	1. ガイダンス 1)看護過程を学習する意義 看護過程の構成要素 2)看護過程のもとになる考え方と理論 3)看護過程の構成要素	講義	
2	2. 看護過程の各段階 1)情報とは 2)情報収集の方法 3)情報の分析とは	講義	
3	3. ヘンダーソンの看護理論と看護過程 1) 常在条件と病理的状态について	講義	
4	2) 基本的欲求の充足・未充足の判断とアセスメントガイド	講義	
5	3) 紙上事例の提示とグループワークについて	講義・ワーク	
6	4. アセスメントとは 1)アセスメントの実際①	講義・ワーク	
7	2)アセスメントの実際②	講義・ワーク	
8	3)アセスメントの実際③	講義・ワーク	
9	5. 看護問題の明確化 1)看護問題の種類、表記方法、2)看護問題の優先順位	講義・ワーク	
10	6. 看護計画の立案 1)期待される成果の明確化	講義・ワーク	
11	2)介入方法の検討（観察計画・ケア計画・教育計画について）	講義・ワーク	
12	7. 評価の方法 （評価を行う時期と進め方について）	講義・ワーク	
13	8. 実施、報告と記録（看護記録の書き方）	講義	
14	9. 看護過程のまとめ	講義	
15	まとめ、単位認定試験（1H）		
<テキスト> 看護の基本となるもの V.ヘンダーソン著 日本看護協会出版会 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学2 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 <参考テキスト>看護過程の解体新書 石川ふみよ著 学研メディカル秀潤社			
評価方法	筆記試験 60 点 提出課題 40 点		
評価	S:100～90 点 A：89～80 点 B：79～70 点 C：69～60 点 D：59 点以下		

科目名	講義時期	単位（時間）	講 師
看護研究	3 年次通年	1 単位（30 時間）	看護師として病院勤務有
<学習のねらい> 看護の質の向上のために研究活動が必要なことを理解する。 研究の対象となる課題を明確にし、科学的に考察するために文献の利用方法を学ぶ。			
回	授 業 内 容		授業方法
1	看護研究とはどのようなことか		講義
2	研究テーマのみつけ方		講義
3	看護研究の手順		講義
4	文献検索と文献クリティークについて		講義
5	文献検索	1) 文献検索の方法 2) 文献リストの作成方法について	講義
6	看護研究の意義	1) 看護研究の取り組み方 2) 看護研究の倫理的配慮について 3) 文献を活用したテーマの選定	講義
7	研究計画書の作成	1) 臨床で行う看護研究における研究計画書作成の意味 2) 研究計画書の構成	講義
8		3) 研究計画書の書き方 個人ワーク：研究計画書の作成①	講義 ワーク
9		個人ワーク：研究計画書の作成②	ワーク
10		個人ワーク：研究計画書の作成③	ワーク
11		個人ワーク：研究計画書の作成、提出	ワーク
12	研究計画書発表会①	発表準備	ワーク
13	研究計画書発表会②	発表、質疑応答、講評	ワーク
14	研究計画書発表会③	発表、質疑応答、講評	ワーク
講師作成資料			
評価方法	研究計画書 50 点 文献リスト 20 点 発表 20 点 出席状況 10 点		
評価	S:100～90 点 A: 89～80 点 B: 79～70 点 C: 69～60 点 D: 59 点以下		

科目名	講義時期	単位（時間）	講 師
地域・在宅看護論 概論	1 年次通年	2 単位（30 時間）	看護師として病院勤務有
<学習のねらい> 1. 暮らしの基盤となる地域を知り、地域で生活する人々についての理解を深める。 2. 地域における健康の保持・増進のための事業や活動について学び、地域・在宅看護の概念、基礎知識を習得する。 3. 地域で生活しながら療養する人々とその家族の特徴を理解し、療養者・家族を支える保健・医療・福祉についての知識を学ぶ。 4. 自らが社会資源となり、その役割について考えることができる。			
回	授 業 内 容		授業方法
1	地域・在宅看護とは ～地域で生活する人々とは～		講義
2	地域・在宅看護とは ～地域で療養する人々と家族について～		講義
3	在宅ケアを支える制度と社会資源① 法制度		講義
4	在宅ケアを支える制度と社会資源② 様々な社会資源		講義
5	在宅ケアを支える制度と社会資源③ ケアマネジメント、チームケア		講義
6	在宅ケアを支える制度と社会資源④ ～認知症サポーターとなり自らも社会資源として出来ることを考えましょう～		講義
7	学校所在地である神奈川区について調べてみましょう		講義・演習
8	神奈川区で生活する人々の健康の保持・増進のための事業や活動について調べてみましょう① ワーク 発表準備		講義・演習
9	神奈川区で生活する人々の健康の保持・増進のための事業や活動について調べてみましょう② 発表		講義・演習
11	訪問看護活動について		講義
12	訪問看護ステーションのしくみ①「訪問看護ステーションを立ちあげよう」		演習
13	訪問看護ステーションのしくみ②「訪問看護ステーションを立ちあげよう」		演習
14	訪問看護ステーションのしくみ③「訪問看護ステーションを立ちあげよう」		演習
15	まとめ、単位認定試験（1H）		
<テキスト> 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 1 地域・在宅看護の基盤 医学書院 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 2 地域・在宅看護の実践 医学書院			
評価方法	筆記試験 60 点 提出物 20 点 グループワーク 20 点		
評価	S:100～90 点 A：89～80 点 B：79～70 点 C：69～60 点 D：59 点以下		

科目名	講義時期	単位（時間）	講 師
地域・在宅看護論Ⅰ 多職種連携	1 年次後期	1 単位（15 時間）	看護師として病院勤務有
<学習のねらい> 1.地域包括ケアシステムを支える多職種の活動・役割を理解し、多職種連携及び多職種協働について理解する。 2.事例をもとに対象者のケアマネジメントについて考えることができる。			
回	授 業 内 容		授業方法
1	地域包括ケアシステムとそれを支える多職種連携とは		講義
2	①地域包括システムを支える専門職～保健師の活動・役割について～		講義
3	②地域包括システムを支える専門職～社会福祉士の活動・役割について～		講義
4	③地域包括ケアシステムを支える専門職 ～介護支援専門員の活動・役割について～		講義
5	④地域包括ケアシステムを支える専門職 ～理学療法士の活動・役割について～		講義
6	事例検討 ～対象者が住み慣れた地域で暮らすために必要な専門職とその役割について考えてみましょう～		演習
7	発表		演習
8	まとめ、単位認定試験（1H）		
<テキスト> 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 1 地域・在宅看護の基盤 医学書院 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 2 地域・在宅看護の実践 医学書院			
評価方法	筆記試験 100 点		
評価	S:100～90 点 A：89～80 点 B：79～70 点 C：69～60 点 D：59 点以下		

科目名	講義時期	単位（時間）	講 師
地域・在宅看護論Ⅱ 在宅看護技術	2 年次前期	1 単位（30 時間）	看護師として病院勤務有
<学習のねらい> 1. 在宅での療養環境や生活様式は多様であるため、それぞれの家庭にあった日常生活援助技術や在宅ならではの工夫を学ぶ。 2. 在宅療養でみられる医療処置及び管理について療養者、家族への教育的な関わりを学ぶ。 3. 生活の場に訪問する際の姿勢・態度について学ぶ。			
回	授業内容		授業方法
1	食を支える援助技術①（療養者の嚥下機能や栄養状態のアセスメント）		講義
2	食を支える援助技術②（経鼻経管栄養、胃ろう、HPN、家族への指導）		講義
3	排泄を支える援助技術（ストーマ、留置カテーテル、家族への指導）		講義
4	排泄を支える援助技術（摘便、家族への指導）		演習
5	移動を支える援助技術（福祉用具の活用、家族への指導）		講義 演習
6	褥瘡の処置、管理		講義
7	清潔を支える援助技術①（清拭、洗髪、入浴介助、家族への指導）		講義
8	清潔を支える援助技術②（家庭にある物品を使用しての洗髪）		演習
9	薬物療法・服薬管理指導		講義
10	呼吸を支える援助技術①（在宅酸素療法、人工呼吸器、家族への指導）		講義
11	呼吸を支える援助技術②（在宅酸素療法、人工呼吸器）		演習
12	家庭訪問時のマナー		講義
13	初回訪問①		演習
14	初回訪問②		演習
15	まとめ、単位認定試験（1H）		
<テキスト> 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 1 地域・在宅看護の基盤 医学書院 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 2 地域・在宅看護の実践 医学書院			
評価方法	筆記試験 90 点 授業参加度（出席・提出物・参加態度） 10 点		
評価	S:100～90 点 A:89～80 点 B:79～70 点 C:69～60 点 D:59 点以下		

科目名		講義時期	単位（時間）	講 師
地域・在宅看護論Ⅲ 在宅ターミナルケア		2 年次通年	1 単位（15 時間）	看護師として病院勤務有
＜学習のねらい＞ 1．在宅看護で展開される緩和ケア、終末期看護における看護師の役割について学ぶ。 2．事例を通し在宅ターミナルケアについて考えることができる。				
回	授 業 内 容			授業方法
1	在宅ターミナルケア① 在宅ターミナルケアの特徴			講義
2	在宅ターミナルケア② 導入期			講義
3	在宅ターミナルケア③ 安定期、緩和ケア			講義
4	在宅ターミナルケア④ 終末期			講義
5	在宅ターミナルケア⑤ 看取り、グリーフケア			講義
6	事例展開			演習
7	発表			演習
8	まとめ、単位認定試験（1H）			
＜テキスト＞ 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 1 地域・在宅看護の基盤 医学書院 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 2 地域・在宅看護の実践 医学書院				
評価方法		筆記試験 100 点		
評価		S:100～90 点 A : 89～80 点 B : 79～70 点 C : 69～60 点 D : 59 点以下		

科目名	講義時期	単位（時間）	講 師
地域・在宅看護論 看護過程	2 年次通年	1 単位（30 時間）	看護師として病院勤務有
<学習のねらい> 1. 在宅療養者の健康状態を捉え、療養生活が家族に及ぼす影響について理解する。 2. 在宅看護の特徴を踏まえた看護の展開方法を学ぶ。 3. 在宅療養者と家族が望む暮らしを理解しそれぞれにあった援助を考えることができる。			
回	授 業 内 容		授業方法
1	訪問看護における看護過程の特徴		講義
2	訪問看護における看護過程展開 1）情報収集、情報整理		演習
3	訪問看護における看護過程展開 2）情報整理、療養者のアセスメント		演習
4	訪問看護における看護過程展開 3）情報整理、家族のアセスメント		演習
5	訪問看護における看護過程展開 4）問題抽出、優先順位の決定		演習
6	訪問看護における看護過程展開 5）看護計画立案		演習
7	訪問看護における看護過程展開 6）評価、モニタリング		演習
8	対象別在宅看護 1）要支援対象者へのケアマネジメント		講義・演習
9	対象別在宅看護 2）寝たきり高齢者の看護		講義・演習
10	対象別在宅看護 3）認知症高齢者の看護		講義・演習
11	対象別在宅看護 4）生活習慣病を持つ対象者への看護		講義・演習
12	対象別在宅看護 5）神経難病を持つ対象者への看護		講義・演習
13	対象別在宅看護 6）精神障害者への看護		講義・演習
14	対象別在宅看護 7）重度心身障害児への看護		講義・演習
15	まとめ、単位認定試験（1H）		
<テキスト> 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 1 地域・在宅看護の基盤 医学書院 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 2 地域・在宅看護の実践 医学書院			
評価方法	筆記 50 点 提出物 50 点		
評価	S:100～90 点 A：89～80 点 B：79～70 点 C：69～60 点 D：59 点以下		

科目名	講義時期	単位（時間）	講 師
成人看護学Ⅱ 慢性期看護	1 年次後期	1 単位（30 時間）	看護師として病院勤務有
＜学習のねらい＞			
慢性期にある対象者とその家族の身体的・心理的・社会的特徴を理解し、“病”と共存し、自己コントロールをしていきながら生活していくことを支える看護を学ぶ。慢性症状を呈する代表的な疾患、慢性に移行しやすい疾患の特徴を取り上げ、治療や看護を学ぶ。			
回	授 業 内 容		授業方法
1	慢性期看護概論（慢性期とは 慢性期の疾患・治療の特徴）		講義
2	慢性期看護概論（慢性期の患者のニーズ 慢性期にある患者・家族への援助）		講義
3	呼吸機能障害のある人への看護（事例：慢性閉塞性肺疾患 COPD）①		講義
4	呼吸機能障害のある人への看護（事例：慢性閉塞性肺疾患 COPD）②		講義
5	呼吸機能障害のある人への看護（事例：COPD 肺音フィジカルアセスメント）③		演習
6	内部環境調整障害のある人への看護（事例：腎不全）①		講義
7	内部環境調整障害のある人への看護（事例：腎不全）②		講義
8	生体防御機能障害のある人への看護（事例：膠原病）		講義
9	栄養代謝障害のある人への看護（事例：慢性肝炎・肝硬変）		講義
10	栄養代謝障害のある人への看護（事例：脂質異常症・高血圧）		講義
11	栄養代謝障害のある人への看護（事例：糖尿病）①		講義
12	栄養代謝障害のある人への看護（事例：糖尿病）②		講義
13	栄養代謝障害のある人への看護（事例：糖尿病）生活指導③		講義
14	栄養代謝障害のある人への看護（事例：糖尿病 簡易血糖測定）④		演習
15	まとめ、単位認定試験（1H）		
＜テキスト＞			
系統看護学講座	専門分野	基礎看護学 4	臨床看護総論 医学書院
系統看護学講座	専門分野	成人看護学 1	成人看護学総論 医学書院
系統看護学講座	専門分野	成人看護学 2	呼吸器 医学書院
系統看護学講座	専門分野	成人看護学 5	消化器 医学書院
系統看護学講座	専門分野	成人看護学 6	内分泌・代謝 医学書院
系統看護学講座	専門分野	成人看護学 8	腎・泌尿器 医学書院
系統看護学講座	専門分野	成人看護学 11	アレルギー 膠原病 感染症 医学書院
評価方法	筆記試験 80 点 提出物 15 点 授業参加度（出席・参加態度）5 点		
評価	S:100～90 点 A：89～80 点 B：79～70 点 C：69～60 点 D：59 点以下		

科目名	講義時期	単位（時間）	講 師
成人看護学Ⅱ 慢性期看護	1 年次後期	1 単位（30 時間）	看護師として病院勤務有
＜学習のねらい＞			
慢性期にある対象者とその家族の身体的・心理的・社会的特徴を理解し、“病”と共存し、自己コントロールをしていきながら生活していくことを支える看護を学ぶ。慢性症状を呈する代表的な疾患、慢性に移行しやすい疾患の特徴を取り上げ、治療や看護を学ぶ。			
回	授 業 内 容		授業方法
1	慢性期看護概論（慢性期とは 慢性期の疾患・治療の特徴）		講義
2	慢性期看護概論（慢性期の患者のニーズ 慢性期にある患者・家族への援助）		講義
3	呼吸機能障害のある人への看護（事例：慢性閉塞性肺疾患 COPD）①		講義
4	呼吸機能障害のある人への看護（事例：慢性閉塞性肺疾患 COPD）②		講義
5	呼吸機能障害のある人への看護（事例：COPD 肺音フィジカルアセスメント）③		演習
6	内部環境調整障害のある人への看護（事例：腎不全）①		講義
7	内部環境調整障害のある人への看護（事例：腎不全）②		講義
8	生体防御機能障害のある人への看護（事例：膠原病）		講義
9	栄養代謝障害のある人への看護（事例：慢性肝炎・肝硬変）		講義
10	栄養代謝障害のある人への看護（事例：脂質異常症・高血圧）		講義
11	栄養代謝障害のある人への看護（事例：糖尿病）①		講義
12	栄養代謝障害のある人への看護（事例：糖尿病）②		講義
13	栄養代謝障害のある人への看護（事例：糖尿病）生活指導③		講義
14	栄養代謝障害のある人への看護（事例：糖尿病 簡易血糖測定）④		演習
15	まとめ、単位認定試験（1H）		
＜テキスト＞			
系統看護学講座	専門分野	基礎看護学 4	臨床看護総論 医学書院
系統看護学講座	専門分野	成人看護学 1	成人看護学総論 医学書院
系統看護学講座	専門分野	成人看護学 2	呼吸器 医学書院
系統看護学講座	専門分野	成人看護学 5	消化器 医学書院
系統看護学講座	専門分野	成人看護学 6	内分泌・代謝 医学書院
系統看護学講座	専門分野	成人看護学 8	腎・泌尿器 医学書院
系統看護学講座	専門分野	成人看護学 11	アレルギー 膠原病 感染症 医学書院
評価方法	筆記試験 80 点 提出物 15 点 授業参加度（出席・参加態度）5 点		
評価	S:100～90 点 A：89～80 点 B：79～70 点 C：69～60 点 D：59 点以下		

科目名	講義時期	単位(時間)	講 師
成人看護学Ⅲ 急性期看護	2 年次通年	1 単位(30 時間)	看護師として病院勤務有
<学習のねらい> 急性疾患の発症や何らかの侵襲により生命の危機状態から回復過程にある人の治療や看護の特徴を理解し、生命を支えるための看護について学びを深める。循環機能や脳神経機能に障害をもつ患者の事例から生命の危機的状況について理解し、臨床判断の基礎的能力を養う。			
回	授 業 内 容		授業方法
1	急性期看護概論（急性期とは 急性期治療の特徴）		講義
2	急性期看護概論（急性期～回復期にある患者のニーズと看護援助）		講義
3	救急看護の概念 救急看護の対象の理解		講義
4	救急看護体制と看護展開 救急患者の観察とアセスメント		講義
5	救急処置と看護・救急時の看護技術（一次救命処置・止血法）		演習
6	集中治療を受ける患者の看護		講義
7	集中治療における看護の実際（人工呼吸器管理・輸液管理）		講義
8	循環機能障害のある人への看護（急性冠症候群の概念）		講義
9	循環機能障害のある人への看護（事例：急性心筋梗塞）①		講義
10	循環機能障害のある人への看護（事例：急性心筋梗塞）②		講義
11	循環機能障害のある人への看護（心音フィジカルアセスメント）		演習
12	循環機能障害のある人への看護（循環モニタリング）		演習
13	脳神経機能障害のある人への看護（事例：くも膜下出血）①		講義
14	脳神経機能障害のある人への看護（事例：くも膜下出血）②		講義
15	まとめ、単位認定試験（1H）		
<テキスト> 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学4 臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学1 成人看護学総論 医学書院 系統看護学講座 別巻 救急看護 医学書院 系統看護学講座 別巻 クリティカルケア看護学 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学3 循環器 医学書院 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学7 脳・神経 医学書院			
評価方法	筆記試験 85 点 提出物 5 点 授業参加度（出席・参加態度）10 点		
評価	S:100～90 点 A：89～80 点 B：79～70 点 C：69～60 点 D：59 点以下		

科目名		講義時期	単位（時間）	講 師
成人看護学Ⅳ 周術期看護		2 年次前期	1 単位（30 時間）	看護師として病院勤務有
<学習のねらい> 急速に健康状態が変化する周術期にある患者の理解を深め、周術期における看護の役割を学ぶ。手術を必要とする代表的な疾患の事例を通して術後合併症を予防し、回復を促す看護を学ぶ。				
回	授 業 内 容			授業方法
1	周術期看護概論（手術を受ける患者の状況）			講義
2	周術期における安全管理と感染予防			講義
3	手術前患者の看護 手術前の具体的援助			講義
4	手術中患者の看護			講義
5	手術中における看護の展開（手術体位とその介助）			演習
6	手術中の環境管理			講義
7	手術後の患者の看護 手術後の回復を促すための看護			講義
8	術後合併症の発生機序 術後合併症の予防と発生時の対応			講義
9	術後合併症の予防と発生時の対応（術前訓練・早期離床の援助・ドレーン管理）			演習
10	消化・吸収障害を持つ人の看護（事例：胃がん）			講義
11	消化・吸収障害を持つ人の看護（事例：直腸がん）			講義
12	消化・吸収障害を持つ人の看護（事例：直腸がん ストーマ管理）			演習
13	性・生殖機能障害を持つ人の看護（事例：乳がん）			講義
14	性・生殖機能障害を持つ人の看護（事例：乳がん）			講義
15	まとめ、単位認定試験（1H）			
<テキスト> 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 4 臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 1 成人看護学総論 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 5 消化器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 9 女性生殖器 医学書院				
評価方法		筆記試験 90 点 授業参加度（出席・参加態度）10 点		
評価		S:100～90 点 A：89～80 点 B：79～70 点 C：69～60 点 D：59 点以下		

科目名	講義時期	単位（時間）	講 師
成人看護学Ⅴ 看護過程	2 年次通年	1 単位（30 時間）	看護師として病院勤務有
<学習のねらい> 経過別看護の中の急性期から回復期にある患者を生活者として捉え、患者が主体的に新たな療養行動を再獲得し、生活を立て直すことができる看護の方法を学ぶ。事例を基に看護過程の展開を行い、対象に必要な看護ケアについて理解し、臨床判断の基礎的能力を養う。			
回	授 業 内 容		授業方法
1	授業ガイダンス、リハビリテーション期の患者への看護援助		講義
2	急性期から回復期にある患者の看護過程の展開 事例紹介 （事例：虚血性心疾患）		講義
3	急性期から回復期にある患者の看護過程の展開 対象の理解 情報の整理、全体像		講義
4	急性期から回復期にある患者の看護過程の展開 アセスメント		演習
5	急性期から回復期にある患者の看護過程の展開 アセスメント		演習
6	急性期から回復期にある患者の看護過程の展開 アセスメント		演習
7	急性期から回復期にある患者の看護過程の展開 アセスメント 看護上の問題抽出		演習
8	急性期から回復期にある患者の看護過程の展開 看護計画		演習
9	急性期から回復期にある患者の看護過程の展開 看護計画		演習
10	急性期から回復期にある患者の看護過程の展開 看護計画の実施		演習
11	急性期から回復期にある患者の看護過程の展開 看護計画の実施		演習
12	急性期から回復期にある患者の看護過程の展開 看護計画の評価		演習
13	急性期から回復期にある患者の看護過程の展開 看護サマリー		演習
14	退院後の生活への支援（職場における健康づくりの取り組み 産業看護）		講義
15	まとめ、単位認定試験（1H）		
<テキスト> 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 4 臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 1 成人看護学総論 医学書院 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 3 循環器 医学書院			
評価方法	筆記試験 50 点 提出課題 40 点 授業参加度（出席・参加態度）10 点		
評価	S:100～90 点 A: 89～80 点 B: 79～70 点 C: 69～60 点 D: 59 点以下		

科目名	講義時期	単位（時間）	講 師
成人看護学Ⅵ 終末期看護	3 年次前期	1 単位 (15 時間)	看護師として病院勤務有
<学習のねらい> 終末期にある人の残された生を支える看護の役割を学ぶ。緩和ケアやがん看護の現状から今後の展望や課題について理解を深める。また急性期状況にある看取りと脳死状態にある患者の看護から死後の選択の一つ「臓器移植について」、コーディネーターの講話を受け死生観を深める。			
回	授 業 内 容		授業方法
1	終末期看護概論 (終末期とは 終末期医療の特徴 終末期の患者のニーズ)		講義
2	緩和ケアの現状と展望 チームアプローチ・コミュニケーション		講義
3	緩和ケアにおける倫理的課題・全人的ケアの実践		講義
4	臨死期の看護 家族への援助（死後のケア）		講義
5	グリーフケア 家族・医療者		講義
6	急性期状況にある看取り、脳死状態にある患者・家族への看護		講義
7	繋がるいのち （ 臓器移植 ）		講義
8	まとめ、単位認定試験（1 H）		
<テキスト> 講師作成の資料 系統看護学講座 別巻 緩和ケア 医学書院 系統看護学講座 別巻 がん看護学 医学書院			
評価方法	筆記試験 80 点 レポート 10 点 授業参加度（出席・参加態度）10 点		
評価	S:100～90 点 A：89～80 点 B：79～70 点 C：69～60 点 D：59 点以下		

科目名	講義時期	単位（時間）	講 師
老年看護学Ⅰ 概論	1 年次通年	1 単位（15 時間）	看護師として病院勤務有
<学習のねらい> ライフサイクルにおける老年期の特徴を理解する。 高齢者の健康と生活を理解するために、加齢による変化、保健医療福祉の現状と課題を理解する。 老年看護の基本的な考え方を理解し、高齢者に関心をもち、老年看護学における基礎を学ぶ。			
回	授 業 内 容	授業方法	
1	高齢者の理解(1) ＊課題レポート 高齢者の理解(2) 高齢者の定義 ライフサイクルにおける特徴 老年期の発達課題	講義	
2	高齢者の理解(3) 加齢に伴う身体的変化	講義	
3	加齢に伴う心理的变化 加齢に伴う社会的変化	講義	
4	超高齢社会の統計的輪郭 高齢社会における保健医療福祉の動向	講義	
5	高齢者の権利擁護と倫理的課題 (1) 高齢者虐待 (2) 身体拘束 (3) 権利擁護のための制度	講義	
6	高齢者の権利擁護と倫理的課題	GW	
7	老年看護の役割 老年看護における理論・概念の活用	講義	
8	まとめ、単位認定試験（1H）		
<テキスト> 系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論 医学書院 公衆衛生がみえる メディックメディア			
評価方法	筆記試験 80 点 レポート課題 10 点 授業参加度（GW）10 点		
評価	S:100～90 点 A：89～80 点 B：79～70 点 C：69～60 点 D：59 点以下		

科目名	講義時期	単位（時間）	講 師
老年看護学Ⅱ 高齢者の生活の アセスメントと援助	1 年次後期	1 単位（30 時間）	看護師として病院勤務有
<学習のねらい> 加齢による変化は生活に支障をきたしやすい。高齢者の加齢に伴う身体的・心理的・社会的変化を理解し、生活の視点での観察とアセスメントを学ぶ。また、高齢者の残存機能、持てる力や強みを活用した援助、および生活機能を整える援助技術について学ぶ。また、高齢者に特有の加齢変化から起こりやすい事故・安全への援助について学ぶ。			
回	授 業 内 容	授業方法	
1	高齢者とのコミュニケーション 1) 感覚器系の加齢変化による影響 2) 記憶・理解力の変化による影響	講義	
2	高齢者の生活機能を整える看護：コミュニケーション	演習	
3	高齢者疑似体験①	演習	
4	高齢者疑似体験②	演習	
5	高齢者の生活機能を整える看護：日常生活を支える基本的活動	講義	
6	高齢者の生活機能を整える看護：食事・食生活	講義	
7	高齢者の生活機能を整える看護：排泄	講義	
8	高齢者の生活機能を整える看護：清潔と衣生活	講義	
9	高齢者の生活機能を整える看護：生活リズム、社会参加	講義	
10	日常生活の援助技術① 排泄介助、オムツ交換	演習	
11	日常生活の援助技術② 口腔ケア、義歯の取り扱い	演習	
12	日常生活の援助技術③ 入浴・シャワー浴介助、更衣	演習	
13	高齢者の生活機能と包括的アセスメントの視点 1) 生活機能と評価 2) 高齢者のフィジカルアセスメント	講義	
14	高齢者のリスクマネジメント 1) 転倒・転落 2) 誤嚥・窒息 3) 熱傷	講義	
15	まとめ、単位認定試験（1H）		
<テキスト> 系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論 医学書院			
評価方法	筆記試験 100 点		
評価	S:100～90 点 A：89～80 点 B：79～70 点 C：69～60 点 D：59 点以下		

科目名		講義時期	単位（時間）	講 師
老年看護学Ⅲ 高齢者の健康障害の アセスメントと看護		2 年次前期	1 単位（30 時間）	看護師として病院勤務有
<学習のねらい> 高齢者に多い疾患・障害の理解と健康段階、健康障害に応じた看護について学ぶ。 事例を活用し、学習方法としてアクティブラーニング(AL)を取り入れ、老年看護実践につな がる基礎的能力、臨床判断の基礎的能力を養う。				
回	授 業 内 容			授業方法
1	健康障害のある高齢者の特徴 薬物療法を受ける高齢者の看護			講義
2	急性期にある高齢者の看護 手術療法を受ける高齢者の看護 (1) 白内障患者の事例			講義
3	(2) 前立腺肥大患者の事例			講義
4	慢性期にある高齢者の看護 (1) 心不全患者の事例①			講義・AL
5	心不全患者の事例②			講義・AL
6	心不全患者の事例③			講義・AL
7	(2) パーキンソン病患者の看護①			講義
8	パーキンソン病患者の看護②			講義
9	回復期にある高齢者の看護 (1) リハビリテーションを受ける高齢者の看護 (2) 骨粗鬆症・運動器疾患患者の事例①			講義
10	骨粗鬆症・運動器疾患患者の事例②			講義
11	(3) 脳梗塞患者の事例①			講義・AL
12	脳梗塞患者の事例②			講義・AL
13	脳梗塞患者の事例③			講義・AL
14	終末期にある高齢者の看護 1. 終末期にある高齢者の特徴 2. 高齢者の死に関わる権利擁護 3. アドバンス・ケア・プランニング 4. 老衰患者の事例			講義
15	まとめ、単位認定試験（1H）			
<テキスト> 系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論 医学書院				
評価方法		筆記試験 100 点		
評価		S:100～90 点 A：89～80 点 B：79～70 点 C：69～60 点 D：59 点以下		

科目名	講義時期	単位（時間）	講 師
老年看護学Ⅳ 高齢者への支援と看護	2 年次通年	1 単位（30 時間）	看護師として病院勤務有
<学習のねらい> 認知症の最大の原因が加齢であり、認知症は誰にでも起こりうる身近な病気である。2025 年には 5 人に 1 人、20%が認知症になるという推計もあり、認知症になっても生きやすい社会、認知症の人と共に生きる社会を造ることは、超高齢社会の現代を生きる私たち一人ひとりにとっても重要なことである。 課題に取り組むことで、これまで学んだ老年看護学の目標、知識・技術、考え方を統合させ、主体的、対話的な学びによって、さらに学びを深化させる。			
回	授 業 内 容	授業方法	
1	1. 高齢者の生活に関する制度 2. 高齢者施設の機能・特徴（介護保健 3 施設、特定施設）	講義	
2	認知症高齢者の看護①	講義	
3	認知症高齢者の看護②	講義	
4	高齢者の特徴をふまえた看護過程の考え方 1. アセスメントの視点 2. 目標志向型思考	講義	
5	3. 目標志向型思考のアセスメントの実際①	講義・演習	
6	目標志向型思考のアセスメントの実際②	講義・演習	
7	課題に取り組む①『「認知症の人」との共生社会の実現を考える』	演習	
8	課題に取り組む ＊グループホームで働く看護師の役割	講義	
9	課題に取り組む②	演習	
10	課題に取り組む③	演習	
11	課題に取り組む④	演習	
12	課題に取り組む⑤（発表準備）	演習	
13	課題に取り組む：発表	演習	
14	課題に取り組む：発表	演習	
15	まとめ、単位認定試験（1 H）		
<テキスト> 系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論 医学書院			
評価方法	筆記試験 30 点 課題 70 点		
評価	S:100～90 点 A : 89～80 点 B : 79～70 点 C : 69～60 点 D : 59 点以下		

科目名	講義時期	単位（時間）	講 師
小児看護学Ⅰ 概論	1 年次後期	1 単位（30 時間）	看護師として病院勤務有
<学習のねらい> 1. 小児看護の理念と目的、役割について理解できる。 2. 子どもの成長・発達の特徴とその生活について理解できる。 3. 子どもとその家族に必要な看護について理解する。 4. 子どもを取り巻く社会の変化に関心を持つことができる。			
回	授 業 内 容		授業方法
1	授業ガイダンス、小児看護の概要、小児看護の特徴と理念・目的 ライフサイクルと子どもの健康		講義
2	小児看護の変遷、小児看護の役割① 1. 子どもの人権と看護倫理		講義
3	小児看護の変遷、小児看護の役割② 1. プレパレーション、ディストラクション、小児の権利擁護のための説明 2. キワニスドールについて		講義
4	小児の成長・発達 1. 成長・発達の原則 2. 小児の発達理論		講義
5	小児各期の成長・発達の特徴【新生児～乳児】		講義
6	小児各期の成長・発達の特徴【幼児】		講義
7	小児各期の成長・発達の特徴【学童期・思春期・青年期】		講義
8	小児各期の成長・発達のまとめ		講義
9	小児の成長・発達に合わせた日常生活援助と事故予防		講義
10	子どもへの援助 1. 子どもの抱き方、オムツ交換、年齢に合わせた遊び 2. 子どもの体験：チャイルドヴィジョン		演習
11	子どもの食事と栄養		講義
12	子どもと家族を取り巻く社会① 1. 子どもをめぐる法律と政策・社会保障（児童福祉、母子保健施策他）		講義
13	子どもと家族を取り巻く社会② 1. 学校保健、予防接種、小児看護の今後の課題		講義
14	子どもと家族を取り巻く社会③ 1. 家族機能、児童虐待、不登校、いじめ		講義
15	まとめ、単位認定試験（1 H）		
<テキスト> 系統看護学講座 専門分野 小児看護学Ⅰ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 <参考テキスト> 新体系 看護学全書① 小児看護学概論/小児保健 メヂカルフレンド社			
評価方法		筆記試験 100 点	
評価		S:100～90 点 A：89～80 点 B：79～70 点 C：69～60 点 D：59 点以下	

科目名	講義時期	単位（時間）	講 師
小児看護学Ⅱ 小児特有の疾患と特別な 状況にある子どもの理解	2 年次前期	1 単位 (30 時間)	看護師・医師として病院勤務有
<学習のねらい> 小児の健康障害の特徴を理解し、病態・症状・検査・診断・治療を学ぶ。 特別な状況にある子どもと家族の特徴を知り、必要な援助について学ぶ。			
回	授 業 内 容		授業方法
1	先天異常（ダウン症候群、18 トリソミーなど）		講義
2	呼吸器疾患・アレルギー疾患（肺炎、気管支喘息など）		講義
3	循環器疾患（ファロー四徴症、川崎病など）		講義
4	消化器疾患（肥厚性幽門狭窄症、胆道閉鎖症、直腸肛門奇形、腸重積症、鼠径ヘルニアなど）		講義
5	内分泌・代謝性疾患（1 型糖尿病など）		講義
6	血液・造血器疾患（白血病など）		講義
7	腎泌尿器疾患（急性糸球体腎炎、ネフローゼ症候群など）		講義
8	神経疾患（てんかん、水頭症など）		講義
9	運動器疾患（先天性股関節脱臼、上腕骨顆上骨折など）		講義
10	小児の感染症（ウイルス感染症、細菌感染症など）		講義
11	子どもの一次救急、救急医学		講義
12	災害時の子どもと家族		講義
13	発達障害のある子どもと家族		講義
14	重症心身障害児の特徴		講義
15	まとめ、単位認定試験（1H）		
<テキスト> 系統看護学講座 専門分野 小児看護学 1 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 小児看護学 2 小児臨床看護各論 医学書院			
評価方法	筆記試験 100 点		
評価	S:100～90 点 A：89～80 点 B：79～70 点 C：69～60 点 D：59 点以下		

科目名		講義時期	単位（時間）	講 師
小児看護学Ⅲ 健康障害を持つ子どもと 家族の看護		2 年次前期	1 単位 (30 時間)	看護師として病院勤務有
＜学習のねらい＞ 健康障害をもつ子どもと家族の状況や、健康障害が及ぼす影響を理解し、子どもと家族に対する看護を学ぶ。				
回	授 業 内 容			授業方法
1	入院中の子どもと家族の看護			講義
2	外来における子どもと家族への看護			講義
3	検査・処置を受ける子どもと家族への看護			講義
4	新生児集中治療室における看護			講義
5	急性期・周手術期にある子どもと家族の看護			講義
6	慢性期・終末期にある子どもと家族の看護			講義
7	呼吸器機能の障害を持つ子どもと家族への看護 気管支喘息の事例			講義
8	循環機能の障害を持つ子どもと家族への看護 川崎病の事例			講義
9	消化機能の障害を持つ子どもと家族への看護 胆道閉鎖症の事例			講義
10	内分泌・代謝機能の障害を持つ子どもと家族への看護 1 型糖尿病の事例			講義
11	腎機能の障害を持つ子どもと家族への看護 ネフローゼ症候群の事例			講義
12	がんの子どもと家族への看護 急性リンパ性白血病・急性骨髄性白血病の事例			講義
13	在宅療養中の子どもと家族の看護			講義
14	保育園と保育の役割			講義
15	まとめ、単位認定試験（1H）			
＜テキスト＞ 系統看護学講座 専門分野 小児看護学 1 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 小児看護学 2 小児臨床看護各論 医学書院				
評価方法		筆記試験 100 点		
評価		S:100～90 点 A：89～80 点 B：79～70 点 C：69～60 点 D：59 点以下		

科目名	講義時期	単位（時間）	講 師
小児看護学Ⅳ 臨床小児看護技術 看護過程と臨床判断	2 年次通年	1 単位 (15 時間)	看護師として病院勤務有
<学習のねらい> 小児特有の看護技術と小児臨床判断を習得する。			
回	授 業 内 容		授業方法
1	小児看護に必要な看護技術①情報収集の視点、観察		講義
2	小児看護に必要な看護技術②援助実施のための手順の確認		講義
3	小児看護に必要な看護技術③バイタルサイン測定、聴診		講義 演習
4	小児看護に必要な看護技術④与薬、輸液管理		講義 演習
5	小児看護過程と臨床判断 1. 情報の整理、アセスメント、看護計画 2. 小児における臨床判断①		講義
6	小児臨床判断②		講義 演習
7	小児臨床判断③		講義 演習
8	まとめ、単位認定試験（1H）		
<テキスト> 系統看護学講座 専門分野 小児看護学 1 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院			
評価方法	筆記試験 100 点		
評価	S:100～90 点 A : 89～80 点 B : 79～70 点 C : 69～60 点 D : 59 点以下		

科目名		講義時期	単位（時間）	講 師
母性看護学Ⅰ 概論		1 年次後期	1 単位（30 時間）	看護師として病院勤務有
<学習のねらい> 女性の生涯を通した母性の健康と次世代の健全育成を支援するため、母性看護の基盤となる概念理解に基づき、母性看護の対象理解を深める。また母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現代における性と生殖における課題、役割について考える。				
回	授 業 内 容			授業方法
1	母性看護の基盤となる概念①（母性とは、母性看護とは）			講義
2	母性看護の基盤となる概念②（母子関係と家族発達、ヘルスプロモーション）			講義
3	母性看護の基盤となる概念③（セクシャリティ、リプロダクティブヘルス/ライツ）			講義
4	母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状①（母性看護のあゆみ）			講義
5	母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状②（母子保健統計指標、法律・制度、母子保健の国際化）			講義
6	母性看護の対象理解①（性周期、性分化）			講義
7	母性看護の対象理解②（女性のライフサイクルと家族）			講義
8	女性のライフステージ各期における看護①（思春期の健康問題と看護）			講義
9	女性のライフステージ各期における看護②（成熟期の健康問題と看護）			講義
10	女性のライフステージ各期における看護③（更年期老年期の健康問題と看護）			講義
11	リプロダクティブヘルス①（家族計画、受胎調節、性感染症予防）			講義
12	リプロダクティブヘルス②（人工妊娠中絶、喫煙）			講義
13	リプロダクティブヘルス③（DV、性暴力、子ども虐待における母子への支援）			講義
14	災害時における女性、母子の健康管理			演習
15	まとめ、単位認定試験（1H）			
<テキスト> 系統看護学講座 専門分野 母性看護学Ⅰ 母性看護学概論 医学書院				
評価方法		筆記試験 100 点		
評価		S:100～90 点 A：89～80 点 B：79～70 点 C：69～60 点 D：59 点以下		

科目名	講義時期	単位（時間）	講 師
母性看護学Ⅱ 対象理解	2 年次前期	1 単位（30 時間）	看護師として病院勤務有
<学習のねらい> 妊娠・分娩・産褥・新生児期における生理と正常からの逸脱の過程を理解する。 胎児の正常な発育、子宮外環境に適応する過程と正常からの逸脱の過程を理解する。			
回	授 業 内 容		授業方法
1	妊娠期① 妊娠の生理		講義
2	妊娠期② 胎児の発育とその生理		講義
3	妊娠期③ 母体の生理的变化、妊娠の管理		講義
4	妊娠期④ 妊娠の異常 1 （流産、早産、前置胎盤、常位胎盤早期剥離、妊娠高血圧症候群）		講義
5	妊娠期⑤ 妊娠の異常 2 （糖尿病合併妊娠、感染症）		講義
6	分娩期① 分娩の三要素、分娩の経過		講義
7	分娩期② 分娩の異常 1 （娩出力の異常、胎児機能不全、胎児付属物の異常）		講義
8	分娩期③ 分娩の異常 2 （異常出血、帝王切開術）		講義
9	産褥期① 産褥経過		講義
10	産褥期② 産褥の異常		講義
11	新生児期① 新生児の生理		講義
12	新生児期② 新生児の異常		講義
13	妊産褥婦の心理社会的な変化 （母親の心理社会的変化、起こりやすい心の病気）		演習
14	家族の変化、家族形成と家族の看護		演習
15	まとめ、単位認定試験（1H）		
<テキスト> 系統看護学講座 専門分野 母性看護学② 母性看護学各論 医学書院			
評価方法	筆記試験 100 点		
評価	S:100～90 点 A：89～80 点 B：79～70 点 C：69～60 点 D：59 点以下		

科目名		講義時期	単位（時間）	講 師
母性看護学Ⅲ 妊娠期・分娩期・産褥期・ 新生児期の看護		2 年次前期	1 単位（30 時間）	看護師として病院勤務有
＜学習のねらい＞ 妊娠期・産婦期・産褥期・新生児期の正常と異常の看護を理解する。				
回	授 業 内 容			授業方法
1	妊娠期① 妊娠の診断、妊婦の管理			講義
2	妊娠期② 妊婦と胎児の経過の診断とアセスメント			講義
3	妊娠期③ 妊婦と家族の看護			講義
4	妊娠期④ ハイリスク妊娠の看護			講義
5	分娩期① 産婦・胎児と家族の健康のアセスメント			講義
6	分娩期② 産婦・胎児と家族の看護			講義
7	分娩期③ 異常のある産婦の看護			講義
8	産褥期① 褥婦のアセスメント			講義
9	産褥期② 褥婦と家族の看護 1			講義
10	産褥期③ 褥婦と家族の看護 2			講義
11	産褥期④ 異常のある褥婦の看護			講義
12	新生児期① 新生児のアセスメント			講義
13	新生児期② 新生児の看護			講義
14	新生児期③ 新生児の異常の看護			講義
15	まとめ、単位認定試験（1H）			
＜テキスト＞ 系統看護学講座 専門分野 母性看護学 2 母性看護学各論 医学書院				
評価方法		筆記試験 80 点 課題レポート 20 点		
看護師		S:100～90 点 A：89～80 点 B：79～70 点 C：69～60 点 D：59 点以下		

科目名	講義時期	単位（時間）	講 師
母性看護学Ⅳ 看護過程、技術演習	2 年次通年	1 単位（15 時間）	看護師として病院勤務有
<学習のねらい> 正常分娩の事例を用い、母子の身体的・心理的・社会的変化を捉えながら、母子の健康を維持・促進するための援助を立案し、ニーズ・支援の方向性を理解する。 妊婦、産婦、褥婦、新生児の基本的母性看護技術を習得する。			
回	授 業 内 容		授業方法
1	ウェルネス看護診断とは 事例についての看護過程の展開		講義
2	事例についての看護過程の展開 情報の分析・解釈①（褥婦）		講義－ワーク
3	事例についての看護過程の展開 情報の分析・解釈②（新生児）		講義－ワーク
4	褥婦、新生児の看護過程展開 看護の方向性、目標設定、具体策の立案		講義－ワーク
5	妊娠期・分娩期・産褥期の基本的看護技術 レオポルド触診法 胎児心音・心拍数の聴診 腹囲・子宮底の測定 産褥子宮の観察 乳房の観察		演習
6	新生児期の母性看護学技術① 新生児の健康診査 新生児の観察技術 沐浴 新生児の抱っこ 新生児の衣服の着脱 オムツ交換		演習
7	新生児期の母性看護学技術② 新生児の健康診査 新生児の観察技術 沐浴 新生児の抱っこ 新生児の衣服の着脱 オムツ交換		演習
8	まとめ、単位認定試験（1H）		
<テキスト> 系統看護学講座 専門分野 母性看護学2 母性看護学各論 医学書院 ウェルネスの視点にもとづく母性看護過程 第4版 医歯薬出版株式会社			
評価方法	事例の看護過程 50 点 （情報収集 15 点、アセスメント 20 点、看護計画 15 点） 筆記試験 50 点		
評価	S:100～90 点 A：89～80 点 B：79～70 点 C：69～60 点 D：59 点以下		

科目名	講義時期	単位（時間）	講 師
精神看護学Ⅰ 概論	1 年次通年	1 単位（30 時間）	看護師として病院勤務有
<学習のねらい> 健康なこころの発達に影響を及ぼす要因から、精神保健福祉と精神看護の意義・役割機能を理解する。 精神看護の対象を理解する基本的知識および、援助に必要な理論と介入方法を学ぶ。 精神医療の歴史的変遷を学び、社会のなかの精神障害者を理解する。			
回	授 業 内 容		授業方法
1	精神看護学で学ぶこと 「心のケア」と現代社会		講義
2	精神保健の考え方（精神の健康とは・精神障害とは）		講義
3	精神保健の考え方（ストレスと危機・心的外傷）		講義
4	人間の心のはたらきとパーソナリティ（心の諸活動）		講義
5	人間の心のはたらきとパーソナリティ（心のしくみと人格の発達）		講義
6	人間の心のはたらきとパーソナリティ（無意識と精神分析）		講義
7	関係のなかの人間（全体としての家族）		講義
8	関係のなかの人間（人間と集団）		講義
9	精神障害と治療の歴史		講義
10	精神障害と治療の歴史・日本における精神医学、精神医療の流れ		講義
11	日本における精神医学、精神医療の流れ		講義
12	精神障害と文化・社会学		講義
13	精神障害者の理解：精神障害者の生活の実際（DVD）		講義
14	精神障害者の理解：精神障害者の生活の実際（DVD）		講義
15	まとめ、単位認定試験（1H）		
<テキスト> 系統看護学講座 専門分野 精神看護学Ⅰ 精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 専門分野 精神看護学Ⅱ 精神看護の展開 医学書院			
評価方法	筆記試験 95 点 レポート点 5 点		
評価	S:100～90 点 A: 89～80 点 B: 79～70 点 C: 69～60 点 D: 59 点以下		

科目名	講義時期	単位（時間）	講師
精神看護学Ⅱ 精神看護の実際	2 年次前期	1 単位（30 時間）	看護師として病院勤務有
<学習のねらい> 精神保健福祉の歴史と変遷について知り、関連する法律の基本的理解ができる。 地域で生活する精神障害者の実際を知り、生活のしづらさを考えることができる。 精神科病院の治療環境を学び、その看護について考えることができる。 精神障害者の社会復帰、社会参加について考えることができる。			
回	授 業 内 容	授業方法	
1	精神保健福祉医療の歴史と変遷（欧米と日本における精神看護の歴史）	講義	
2	精神保健福祉活動と法制度の変遷	講義	
3	ケアの人間関係（ケアの前提・原則・方法）	講義	
4	ケアの人間関係（患者 - 看護師関係）	講義	
5	ケアの人間関係（プロセスレコード演習）	講義	
6	ケアの人間関係（プロセスレコード演習 振り返り）	講義	
7	回復を助ける（治療、治療環境と看護）	講義	
8	安全をまもる（行動制限①信書の発受・電話の制限・閉鎖病棟・隔離・拘束）	講義	
9	リエゾン精神看護	講義	
10	安全をまもる（リスクマネジメント）	講義	
11	看護師のメンタルヘルス	講義	
12	災害と精神看護	講義	
13	地域における精神看護	講義	
14	アディクションを抱える対象の支援	講義	
15	まとめ、単位認定試験（1H）		
<テキスト> 系統看護学講座 専門分野 精神看護学① 精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 専門分野 精神看護学② 精神看護の展開 医学書院			
評価方法	筆記試験 85 点 プロセスレコードレポート 5 点 感想文 10 点(2 名 各 5 点)		
評価	S:100～90 点 A: 89～80 点 B: 79～70 点 C: 69～60 点 D: 59 点以下		

科目名	講義時期	単位（時間）	講 師
精神看護学Ⅲ 精神障害者の理解と看護	2 年次通年	1 単位（30 時間）	看護師として病院勤務有
<学習のねらい> 健康上の問題の回復過程とその支援を理解する。精神症状によって、影響される健康や生活をアセスメントし、健全な精神活動・生活行動に向けての看護の方法を学ぶ。精神保健医療システムにおける多職種との協働、連携を理解することで看護師の役割を学び、人間の自律を育む支援について考える。			
回	授 業 内 容		授業方法
1	主な状態・症状に対する治療と看護①（統合失調症 陽性症状：幻覚、妄想 幻聴等）		講義
2	主な状態・症状に対する治療と看護②（統合失調症 陰性症状：無為、自閉状態等）		講義
3	主な状態・症状に対する治療と看護③（気分障害：抑うつ状態、自殺・自傷行為・不安状態）		講義
4	主な状態・症状に対する治療と看護④（気分障害：躁状態）		講義
5	主な状態・症状に対する治療と看護⑤（神経性障害）		講義
6	主な状態・症状に対する治療と看護⑥（パーソナリティ障害、摂食障害）		講義
7	主な状態・症状に対する治療と看護⑦（アルコール依存症）		講義
8	主な状態・症状に対する治療と看護⑧（薬物依存症）		講義
9	治療を受ける対象の看護①（薬物療法に伴う対象への援助）		講義
10	治療を受ける対象の看護②（水中毒を伴う対象への援助・電気痙攣療法）		講義
11	社会復帰に向けての看護①（作業療法・レクリエーション）		講義
12	社会復帰に向けての看護②（作業療法・レクリエーション）		講義
13	社会復帰に向けての看護③（認知行動療法）		講義
14	社会復帰に向けての看護④（心理教育、生活技能訓練：SST）		講義
15	まとめ、単位認定試験（1H）		
<テキスト> 系統看護学講座 専門分野 精神看護学 1 精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 専門分野 精神看護学 2 精神看護の展開 医学書院			
評価方法	筆記試験 100 点		
評価	S:100～90 点 A：89～80 点 B：79～70 点 C：69～60 点 D：59 点以下		

科目名		講義時期	単位（時間）	講 師
精神看護学Ⅳ 事例を用いた看護過程		2 年次通年	1 単位（15 時間）	看護師として病院勤務有
<学習のねらい> オレム、アンダーウッドの看護理論を用いた看護展開が理解できる。 対象理解のための情報収集の視点、方法がわかる。 統合失調症患者の事例を用いて情報の関連からアセスメントができ、対象の全体像がとらえられる。対象の全体像を捉え問題点を抽出し、看護計画を立案できる。				
回	授 業 内 容			授業方法
1	精神科における看護過程 カンファレンスの目的			講義
2	オレム、アンダーウッドのセルフケア理論 セルフケア行動の観察のポイント、具体的援助方法			講義
3	統合失調症の疾患理解と看護介入について 事例紹介			講義
4	事例紹介、看護記録用紙、記入方法の説明 サマリーの説明 事例についての看護展開① 情報の整理 アセスメント 個人ワーク			演習
5	事例についての看護展開② アセスメント 問題抽出 個人ワーク			演習
6	事例についての看護展開③ 問題抽出 看護計画立案 個人ワーク			演習
7	看護計画発表 グループワーク まとめ			演習
8	まとめ 単位認定試験（1H）			
<テキスト> 系統看護学講座 専門分野 精神看護学① 精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 専門分野 精神看護学② 精神看護の展開 医学書院 精神看護学 第3版 学生-患者のストーリーで綴る実習展開 医歯薬出版株式会社				
評価方法		筆記試験 70 点 提出物 30 点		
評価		S:100～90 点 A : 89～80 点 B : 79～70 点 C : 69～60 点 D : 59 点以下		

科目名	講義時期	単位（時間）	講 師
看護の統合と実践Ⅰ 看護管理・看護倫理	3 年次後期	1 単位（30 時間）	看護師として病院勤務有
<学習のねらい> ・看護管理学に含まれる要素についての概略が理解できる ・看護サービスのマネジメントの対象と範囲について理解できる ・組織の構造とその原理について整理し、マネジメントとの関連について理解できる ・組織におけるリスクマネジメントについて理解できる ・看護や看護職の定義や法制度について理解できる ・看護師の職業倫理について理解できる ・看護職の生涯学習ガイドラインについて理解できる			
回	授 業 内 容		授業方法
1	看護におけるマネジメント		講義
2	看護ケアのマネジメント		講義
3	看護職としてのセルフマネジメント		講義
4	看護サービスのマネジメント①		講義
5	❶人材の管理		ワーク
6	看護を取り巻く諸制度①	（中村 和浩講師）	講義
7	看護を取り巻く諸制度②	（看護協会）	講義
8	マネジメントに必要な知識と技術		講義
9	病院立ち上げ・管理①		講義-ワーク
10	病院立ち上げ・管理②		ワーク
11	❷病院立ち上げ・管理②・発表		ワーク
12	看護実践における倫理問題への取り組み		講義
13	看護実践における倫理問題への取り組み	事例検討①	講義-ワーク
14	❸看護実践における倫理問題への取り組み	事例検討②	講義-ワーク
15	まとめ、単位認定試験（1H）		
<テキスト>系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践Ⅰ 看護管理 医学書院			
評価方法	中村峰子：筆記試験 80 点 提出物：10 点（❶3 点❷4 点❸3 点） 中村和浩：◎提出物 10 点		
評価	S:100～90 点 A：89～80 点 B：79～70 点 C：69～60 点 D：59 点以下		

科目名	講義時期	単位（時間）	講 師
看護の統合と実践Ⅱ 医療安全	3 年次通年	1 単位（30 時間）	看護師として病院勤務有
<学習のねらい> 医療安全対策の基本的な考え方について、組織人と個人の立場から理解することができる。 事故事例を通して医療事故防止のためのチーム医療のあり方を理解することができる。			
回	授 業 内 容		授業方法
1	医療安全の定義と分類・行政の取組み・施設における医療安全管理		講義
2	リスク発生の原理とヒューマンエラー① ヒヤリハットと医療事故		講義・演習
3	リスク発生の原理とヒューマンエラー② 体験・その要因と対策		講義・演習
4	起こりやすい医療事故とその対策① 与薬：注射・点滴・内服・麻薬		講義・演習
5	起こりやすい医療事故とその対策② チューブトラブル：転倒・転落		講義・演習
6	起こりやすい医療事故とその対策③ 検査：手術：食事		講義・演習
7	チーム医療・チーム医療における患者・医療者関係		講義・演習
8	チームステップス① 導入		講義・演習
9	チームステップス② チームトレーニング演習：伝達		講義・演習
10	チームステップス③ チームトレーニング演習：チームの鎖、他		講義・演習
11	チームステップス④ まとめ：発表		講義・演習
12	病院におけるリスクマネジメントの実際① 事例展開・防止策の検討		講義・演習
13	病院におけるリスクマネジメントの実際② 事例展開・防止策の検討		講義・演習
14	病院におけるリスクマネジメントの実際③ コンフリクトマネジメント		講義・演習
15	まとめ、単位認定試験（1H）		
<テキスト> 系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践Ⅱ 医療安全 医学書院 <参考テキスト> 看護師の倫理綱領（日本看護協会） その他、授業時に提示			
評価方法	筆記試験 100 点		
評価	S:100～90 点 A：89～80 点 B：79～70 点 C：69～60 点 D：59 点以下		

科目名	講義時期	単位（時間）	講 師
看護の統合と実践Ⅲ 国際看護・災害看護	3 年次後期	1 単位（30 時間）	看護師として病院勤務有
<学習のねらい> 多様な文化と生活が人々の健康に影響を与えることを理解し、グローバルな視点から健康問題をとらえることができる。 災害看護の概念と看護の役割、活動内容について理解し、トリアージを実施することができる。			
回	授 業 内 容		授業方法
1	国際看護学の概念、目的		講義
2	グローバルヘルス		講義
3	国際協力のしくみ（国際救援・保健医療協力分野で活躍する国際機関）		講義
4	文化を考慮した看護（文化を考慮した看護理論、在留外国人への看護）		講義
5	開発協力と看護		講義
6	国際救援と看護		講義
7	災害医療の基礎知識		講義
8	災害看護の基礎知識		講義
9	災害サイクルに応じた活動現場別の災害看護		講義
10	被災者特性に応じた災害看護、災害とこころのケア		講義
11	地震災害看護の展開		講義
12	応急処置（止血・固定等）		演習
13	災害時のトリアージの実際①		演習
14	災害時のトリアージの実際②		演習
15	まとめ、単位認定試験（1H）		
<テキスト> 系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践3 災害看護・国際看護 医学書院 災害現場でのトリアージと応急処置 日本看護協会出版			
評価方法	筆記試験 100 点		
評価	S:100～90 点 A : 89～80 点 B : 79～70 点 C : 69～60 点 D : 59 点以下		

科目名	講義時期	単位（時間）	講 師
統合技術	3 年次通年	1 単位 (30 時間)	看護師として病院勤務有
<学習のねらい> 看護実践マネジメント（優先順位 時間管理・多重課題）を理解し、2 事例を通してチームでおこなう看護活動について理解を深める。 課題事例（複合技術）から状況を判断し、グループで計画立案、実施・振り返りを行い、課題と対策を見出す。			
回	授 業 内 容		授業方法
1	実践マネジメント 日常業務 対象把握 時間管理 優先順位		講義
2	2 事例紹介 全体像把握 2 事例の行動計画立案		演習
3	2 事例 行動計画 発表準備		演習
4	2 事例 行動計画発表		演習
5	課題事例についてオリエンテーション（複合技術） 看護基準と看護手順の違い		講義
6	事例紹介 アセスメント 計画立案 手順書作成		演習
7	事例紹介 アセスメント 計画立案 手順書作成		演習
8	①技術演習 振り返り		演習
9	①技術演習 振り返り		演習
10	計画修正		演習
11	②技術演習 振り返り		演習
12	②技術演習 振り返り		演習
13	技術演習を通しての学び（まとめ 気づき 課題） 発表準備		演習
14	発表		演習
15	単位認定試験（1H）、課題レポート		
<テキスト> 系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践1 看護管理 医学書院 看護師の倫理綱領 日本看護協会（参考図書）			
評価方法	レポート 50 点 筆記試験 40 点 出席状況 10 点		
評価	S:100～90 点 A: 89～80 点 B: 79～70 点 C: 69～60 点 D: 59 点以下		

科目名	講義時期	単位（時間）	講 師
看護実践セミナー	3年次後期	1単位（30時間）	看護師として病院勤務有
<学習のねらい> 各領域にわたり卒業時点で習得しておくべき知識を深め、臨地において活かされる技術の統合を思考的に図る。 対象の状況に応じた看護のエビデンスと対処行動を考えられ、臨床判断能力を高める。			
回	授 業 内 容		授業方法
1	基礎看護学 看護の基本となる概念 看護の展開 基本技術		講義
2	基礎看護学 日常生活援助技術 診療に伴う技術 確認テスト		講義
3	母性看護学 月経周期 妊娠の成立 妊娠期の看護 関係法規		講義
4	母性看護学 分娩のメカニズム 母子の看護 確認テスト		講義
5	小児看護学 子どもの権利 小児保健医療 子どもの成長・発達		講義
6	小児看護学 プレパレーション 各期に応じた子どもと家族への看護 確認テスト		講義
7	成人看護学 機能障害のある成人への看護（検査を受ける患者の看護）		講義
8	成人看護学（治療を受ける患者の看護） 確認テスト		講義
9	老年看護学 高齢者の生活 老年看護の倫理 エンド・オブ・ライフ・ケア		講義
10	老年看護学 老年症候群 認知症 高齢者の暮らしと看護 確認テスト		講義
11	地域・在宅看護論 地域医療を支える制度 多様な場における看護活動		講義
12	地域・在宅看護論 在宅療養における医療管理 確認テスト		講義
13	精神看護学 統合失調症 双極性障害 摂食障害 薬物依存		講義
14	精神看護学 向精神薬 精神保健福祉法 防衛機制 確認テスト		講義
15	まとめ、単位認定試験（1H）		
<テキスト> 各領域の指定するテキスト、資料			
評価方法	筆記試験 90 点 出席点 10 点		
評価	S:100～90 点 A：89～80 点 B：79～70 点 C：69～60 点 D：59 点以下		

科目名	講義時期	単位（時間）	実務経験の有無
基礎看護学実習Ⅰ	1年次通年	1単位（45時間）	看護師として病院勤務有
<学習の目的> 入院生活を送っている対象の療養生活を知り、対象に応じた日常生活援助ができる。 <学習の目標> (1) 対象とその療養生活の状況を知ることができる。 (2) 日常生活援助の必要性が理解できる。 (3) 対象とのコミュニケーションや援助、記録等を通して患者の生活を理解する。 (4) 対象の状態に応じた日常生活援助が実践できる。 (5) 実践した援助を振り返り、今後の自己の課題を明確にできる。 (6) 自己の行動や体験を言語化し、他者に伝えることができる。 (7) 病院の機能や医療チームの職種・役割について考えることができる。 (8) 看護学生として、規則を守り、身だしなみを整えることができる。			
実 習 内 容			
【学内実習】 ・グループごとに手順書を用いて看護技術の実施。 ・振り返りを行い、手順書の修正を実施。 【病棟実習】 ・病院の概要についてオリエンテーション ・看護師が実施する受け持ち患者の援助を見学する。 ・患者とのコミュニケーション、診療録、看護記録などから情報を収集する。 ・患者に実施されている援助及び情報収集から援助を計画する。 ・計画した内容をもとに臨床実習指導者・教員と共に援助を実施する。 ・中間、最終カンファレンス			
※その他詳細は基礎看護学実習Ⅰ実習要項を参照 実習期間・実習メンバーは別途提示			
評価方法	実習評価 100点		
評 価	S：100～90点 A：89～80点 B：79～70点 C：69～60点 D：59点以下		

科目名	講義時期	単位（時間）	実務経験の有無
基礎看護学実習Ⅱ	2年次通年	2単位（90時間）	看護師として病院勤務有
<学習の目的> 看護過程の展開を通して、対象の個別性を考慮した看護実践を行うことができる。 <学習の目標> (1) 対象とのコミュニケーションや日常生活援助を通して良好な関係を築くことができる。 (2) 対象を生活者として把握することができる。 (3) 対象の健康および生活上に関する情報を収集できる。 (4) 対象の情報をアセスメントし対象の個別性をふまえた援助計画が立案できる。 (5) 対象に必要な援助を安全・安楽・自立を考え実施できる。 (6) 実施した援助を評価することができる。 (7) 実施した援助を振り返り、今後の自己の課題を明確にできる。 (8) 主体的に実習に臨むことができる。 (9) 看護師を目指す学生として、規則を守り、みだしなみを整え、相手を尊重した言動ができる。			
実 習 内 容			
【病棟実習】 ・病棟の概要についてのオリエンテーションを受ける ・看護師が実施する受け持ち患者の援助を見学 ・患者とのコミュニケーション、診療録、看護記録などから情報を収集する。 ・情報収集した内容をヘンダーソンの項目に沿って整理し、問題を抽出する。 ・抽出した問題点から看護計画を立て、臨床実習指導者・教員と共に援助を実施する。 ・カンファレンス			
※その他詳細は基礎看護学実習Ⅱ実習要項を参照 実習期間・実習メンバーは別途提示			
評価方法	実習評価 100点		
評 価	S：100～90点 A：89～80点 B：79～70点 C：69～60点 D：59点以下		

科目名	講義時期	単位（時間）	実務経験の有無
地域・在宅看護論実習	3年次通年	3単位（90時間）	看護師として病院勤務有
<学習の目的> 地域で生活する個人及び家族の特徴を理解し、地域での暮らしを支援する看護の基礎的な能力を習得する。 <学習の目標> (1) 地域での暮らしを支援する活動について知ることができる。 (2) 在宅における多様な看護活動を学び、在宅看護の方法が理解できる。 (3) 在宅療養者及びその家族の特徴が理解できる。 (4) 地域にある様々な社会資源を知り、その意義が理解できる。 (5) 在宅ケアチームの一員としての看護の役割と継続看護の必要性が理解できる。 (6) 地域包括ケアシステムを構成する関係機関および専門職の役割と連携について理解できる。			
実 習 内 容			
【訪問看護ステーション】 ・受け持ち療養者を1名決定し、記録などから情報収集する。 ・受け持ち療養者、同行訪問予定者の記録物や指導者から情報を得る。 ・訪問看護師の訪問に同行し、見学する。 ・受け持ち療養者の全体像の把握を行い看護上の問題を抽出し必要な援助を見学または実施する。 ・学びの共有 【地域包括支援センター】 ・地域包括支援センターの活動見学 ・ケアプラザを訪れた人や訪問した人とのコミュニケーション 【透析センター】 ・透析の受け入れから終了までを見学し、血液透析の流れと看護を知る。実施可能な援助があれば指導者とともに行う。 ・療養者とのコミュニケーションなどから、対象の日常生活の特徴および在宅療養に対する思いや日常生活上の工夫を知る。 ・在宅透析療養を継続するための看護援助を知る。 ・透析療法にかかわる社会資源と活用・看護職間、他職種との協働について学ぶ。			
※その他詳細は在宅看護論実習要項を参照 実習期間・実習メンバーは別途提示			
評価方法	実習評価 100点		
評 価	S：100～90点 A：89～80点 B：79～70点 C：69～60点 D：59点以下		

科目名	講義時期	単位（時間）	実務経験の有無
成人・老年看護学実習Ⅰ -回復期	2年次通年	3単位（90時間）	看護師として病院勤務有
<学習の目的> 回復期にある対象者の特徴を理解し、健康の最善の回復に向けた看護の実践を学ぶ。 <学習の目標> (1) 回復期にある対象者の身体的・心理的・社会的側面から理解できる。 (2) 回復期にある対象者の看護過程の展開ができる。 (3) 回復期にある対象者に必要な看護が実践できる。 1) 日常生活動作の自立、生活の再構築に向けた援助ができる。 2) 対象者の気持ちを受けとめ、障害受容に向けた援助ができる。 (4) 回復期にある対象者に関わる保健・医療・福祉チームの機能と看護師の役割を理解できる。			
実 習 内 容			
【病棟実習1週目】 ・病棟の概要についてのオリエンテーション ・行動計画を具体的に記載し、発表、助言を受ける。 ・診療録からの情報や受け持ち患者とコミュニケーションを図り情報収集する。 ・指導者・教員と共に日常生活援助を実施する。 ・関わりを通して得た情報をアセスメントし、看護上の問題点を導き出す。 【病棟実習2週目】 ・立案した看護計画をもとに行動計画を発表し、助言を受ける。 ・計画に沿って援助を指導者、教員と共に実施する。 ・実施した援助の評価・修正・追加を行い看護計画を見直す。不足の情報は随時収集する。 ・病棟カンファレンス（退院調整、リハビリテーションなど）に参加し、保健医療福祉チームとの連携、対象者が利用できる社会資源の活用、継続看護の必要性について学ぶ。 【病棟実習3週目】 ・修正・追加した看護計画を基に行動計画を発表し、助言を受ける。 ・計画に沿って援助を指導者、教員と共に実施し、評価・修正を行う。			
※その他詳細は成人・老年看護学実習Ⅰ実習要項を参照 実習期間・実習メンバーは別途提示			
評価方法	実習評価 100点		
評 価	S：100～90点 A：89～80点 B：79～70点 C：69～60点 D：59点以下		

科目名	講義時期	単位（時間）	実務経験の有無
成人・老年看護学実習Ⅱ -慢性期・終末期	3年次通年	2単位（90時間）	看護師として病院勤務有
<学習の目的> 慢性期・終末期にある対象者の特徴を理解し、その人が健康上の安寧へ向かうための看護の実際を学ぶ。 <学習の目標> (1) 慢性期・終末期にある対象者を身体的・心理的・社会的・霊的側面から理解できる。 (2) 慢性期・終末期にある対象者の看護過程の展開ができる。 (3) 慢性期・終末期にある対象者に必要な看護が実践できる。 (4) 慢性期・終末期にある対象者に関わる保健・医療・福祉チームの機能と看護師の役割を理解できる。			
実 習 内 容			
【病棟実習 1 週目】 ・病棟の概要についてのオリエンテーション ・行動計画を具体的に記載し、発表、助言を受ける。 ・診療録からの情報や受け持ち患者とコミュニケーションを図り情報収集する。 ・指導者・教員と共に日常生活援助を実施する。 ・関わりを通して得た情報をアセスメントし、看護上の問題点を導き出す 【病棟実習 2～3 週目】 ・立案した看護計画をもとに行動計画を発表し、助言を受ける。 ・計画に沿って援助を指導者、教員と共に実施する。 ・実施した援助の評価・修正・追加を行い看護計画を見直す。 ・病棟カンファレンス（退院調整、リハビリ、栄養士、MSWなど）に参加し、保健医療福祉チームとの連携、社会資源の種類と活用方法及び継続看護について学ぶ。			
※その他詳細は成人・老年看護学実習Ⅱ実習要項を参照 実習期間・実習メンバーは別途提示			
評価方法	実習評価 100 点		
評 価	S：100～90 点 A：89～80 点 B：79～70 点 C：69～60 点 D：59 点以下		

科目名	講義時期	単位（時間）	実務経験の有無
成人・老年看護学実習Ⅲ -急性期	3 年次通年	1 単位（30 時間）	看護師として病院勤務有
<学習の目的> 救急外来・集中治療室・手術室の機能と対象者の特徴を知り、看護の役割を学ぶ。 <学習の目標> 【救急外来】 (1) 院内の救急医療体制と機能を知ることができる。 (2) 救急医療を必要としている対象者の特徴を理解できる。 (3) 救急外来における看護の役割について理解できる。 【集中治療室】 (4) 集中治療室の機能と環境を知ることができる。 (5) 集中治療を必要としている対象者の特徴を理解できる。 (6) 集中治療室における看護の役割について理解できる。 【手術室】 (7) 手術室の環境を知ることができる。 (8) 手術療法を必要とする対象者の特徴を理解できる。 (9) 手術室における看護の役割を理解できる。			
実 習 内 容			
【救急外来】 ・救急外来のオリエンテーションを受ける。 ・救急外来搬送患者の処置・援助見学する。 【集中治療室】 ・集中治療室のオリエンテーションを受ける。 ・看護師と共に対象者への看護援助を行う。 【手術室】 ・手術室のオリエンテーションを受ける。 ・申し送りを見学する。 ・手術見学、術前訪問や術後訪問の見学			
※その他詳細は成人・老年看護学実習Ⅲ実習要項を参照 実習期間・実習メンバーは別途提示			
評価方法	実習評価 100 点		
評 価	S : 100～90 点 A : 89～80 点 B : 79～70 点 C : 69～60 点 D : 59 点以下		

科目名	講義時期	単位（時間）	実務経験の有無
老年看護学実習- 介護老人保健施設	2 年次通年	2 単位（90 時間）	看護師として病院勤務有
<学習の目的> 高齢者の特徴を生活面より総合的に理解し、その人が望む（あるいは望むであろう）生活の実現に向けた看護の実践を学ぶ。 <学習の目標> (1) 施設で生活する高齢者を身体的、心理・霊的、社会・文化的側面から理解できる。 (2) 加齢および機能障害が高齢者の日常生活に与える影響を理解できる。 (3) 高齢者の QOL と健康の維持、生活環境を整えるための看護を実践できる。 (4) 対象者のコミュニケーション能力をアセスメントし、尊敬の念と思いやりをもって関わることができる。 (5) 対象者のもてる力を活かした援助方法を考え、計画に基づいて実施しながら評価・修正できる。 (6) 高齢者とその家族の支援に関わる保健・医療・福祉チームの機能と看護の役割を学ぶ。 (7) 実習を通して、自己の老年看護観を表現できる。			
実 習 内 容			
【実習 1 週目】 ・施設や入所している方、通所サービスを利用者している方の概要、他職種との連携についての説明を受ける。 ・受け持ち入所者の「生活機能」に視点をあて、情報収集する。 ・指導者、スタッフが実施する日常生活援助や対象者への関わり方を見学する。 ・具体的な行動レベルでの日常生活援助計画を立案し、実施する。 【実習 2 週目】 ・行動計画を具体的に記載して発表し、助言を受ける。 ・全体像をもとに受け持ち入所者のアセスメントを行い、課題(ニード)を明らかにする。 ・看護計画に基づいて、援助を実施する。 ・チーム医療、看護師の役割について学ぶ。			
※その他詳細は老年看護学実習 実習要項を参照 実習期間・実習メンバーは別途提示			
評価方法	実習評価 100 点		
評 価	S : 100～90 点 A : 89～80 点 B : 79～70 点 C : 69～60 点 D : 59 点以下		

科目名	講義時期	単位（時間）	実務経験の有無
小児看護学実習	2 年次通年	2 単位（90 時間）	看護師として病院勤務有
<学習の目的> 健康障害をもつ小児の特徴を理解し、小児とその家族に対する看護を実践するための基礎的能力を養う。 <学習の目標> (1) 小児の成長・発達段階と基本的な生活習慣の発達を促す援助を理解できる。 (2) 小児の健康障害の特徴を理解し、子どもと家族に及ぼす影響について理解できる。 (3) 小児の臨床判断を行い、臨床的思考の必要性を理解できる。 (4) 小児の事故・感染防止について理解し、環境を整える必要性が理解できる。 (5) 小児をとりまく保健・医療・福祉の連携の中で小児看護の役割が理解できる。 (6) 子どもと家族の立場を尊重することができる。			
実 習 内 容			
【病棟・外来実習】 ・病棟・外来についてのオリエンテーション ・到達目標を発表後、必要時修正を行う。 ・指導者に同行し、援助を見学する。 ・入院している児や家族とのコミュニケーションの実際を見学する。 ・外来での看護援助や指導を見学する。 【保育園実習】 ・園のオリエンテーションを受ける。 ・日々の行動計画発表後、必要時修正を行う。 ・指導者とともに児とコミュニケーションをとる。 ・形態的・機能的・心理社会的発達に応じた基本的生活習慣自立への援助を共に実施する。 ・指導者と共に発達に応じた遊びの援助を実施する。 【特別支援学校見学実習】			
※その他詳細は小児看護学実習要項を参照 実習期間・実習メンバーは別途提示			
評価方法	実習評価 100 点		
評 価	S : 100～90 点 A : 89～80 点 B : 79～70 点 C : 69～60 点 D : 59 点以下		

科目名	講義時期	単位（時間）	実務経験の有無
母性看護学実習	2 年次通年	2 単位（90 時間）	助産師として病院勤務有
<学習の目的> 母性看護の対象と特徴を理解し、対象に応じた看護が実践できる基礎的能力を修得する。 <学習の目標> (1) 母性看護の対象の特徴を踏まえ、健康の保持増進や疾病予防における看護の役割を理解できる。 (2) 周産期における対象を身体的・心理的・社会的・文化的側面から理解できる。 (3) 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の看護実践について理解できる。 (4) ヒューマンケアの観点から生命や人権を尊重し、多様な性・生殖が理解できる。 (5) 保健医療チームの一員として自覚をもち、看護学生として主体的な学習態度で実習に臨むことができる。			
実 習 内 容			
【学内実習】 母性看護技術演習と手順書作成、分娩の DVD 視聴、褥婦のアセスメント発表 【病棟実習】 - 産科病棟オリエンテーション - 褥婦の看護（情報をアセスメントし、ウェルネスの視点で看護援助を考え、看護計画を立案する。褥婦のセルフケア能力を活かして、指導者・教員と共に援助を実施し、評価・修正する） - 新生児の看護（カルテや授乳などを記録している用紙などから、必要な情報収集を行う。行動計画発表の後、指導者・教員と実施し、評価・修正する） - 分娩見学 【地域ヘルスプロモーション活動実習】 - 地域ヘルスプロモーション活動参加			
※その他詳細は母性看護学実習要項を参照 実習期間・実習メンバーは別途提示			
評価方法	実習評価 100 点		
評 価	S : 100～90 点 A : 89～80 点 B : 79～70 点 C : 69～60 点 D : 59 点以下		

科目名	講義時期	単位（時間）	実務経験の有無
精神看護学実習	3 年次通年	2 単位（90 時間）	看護師として病院勤務有
< 学習の目的 > 精神に障害を持つ対象を理解し、看護に必要な知識、技術、態度を習得する < 学習の目標 > (1) 精神に障害を持つ対象の理解を深める。 (2) 対象のセルフケア能力をアセスメントし、必要な看護が実施できる。 (3) 自己の内面の変化に気づき、自己洞察でき、対象と学生との関係を振り返ることができる。 (4) 法律、制度を理解し、精神科病院、精神保健福祉施設における看護の特性、役割を理解することができる。 (5) 精神看護における治療的関わりの意義を理解し、看護者としての態度を養う。			
実 習 内 容			
【事前学習】 ・オリエンテーションを受け、自己の課題、精神看護学実習に対する思いを 言語化する。 ・精神看護学実習の進め方についてのDVDを視聴する。 ・鍵の取り扱いに関するケースカンファレンスを行う。 【病棟実習 1 週目】 ・病院、病棟オリエンテーション ・患者を受け持ち、日々関わることで関係性を築く。 ・プロセスレコードを作成し、発表する。 【病棟実習 2～3 週目】 ・患者を受け持ち、日々関わることで関係性を築く。 ・2 例目のプロセスレコードを作成し、発表する。 ・中間カンファレンス、最終カンファレンス 【デイケア実習】			
※その他詳細は精神看護学実習要項を参照 実習期間・実習メンバーは別途提示			
評価方法	実習評価 100 点		
評 価	S : 100～90 点 A : 89～80 点 B : 79～70 点 C : 69～60 点 D : 59 点以下		

科目名	講義時期	単位（時間）	実務経験の有無
看護の統合と実践実習	3 年次後期	3 単位（135 時間）	看護師として病院勤務有
<学習の目的> 看護チームの一員として看護実践を体験することにより、これまでに学習した知識・技術を統合し、看護専門職としての自覚と責任感を養う。 <学習の目標> (1) 看護管理の実際を見学することにより、他職種との連携及びチーム医療の必要性を理解できる。 (2) 複数患者の看護を展開することにより、看護の優先度及び時間管理の必要性を理解できる。 (3) 病棟スタッフと緊密な連携をもち、チームの一員として自覚した行動をとることができる。 (4) 夜間実習の体験を通して、夜間における患者の特徴や安全管理の実際について理解を深めることができる。 (5) 紙上の事例患者(2 事例)の病態・治療・検査を理解して、優先順位を考えた看護計画を立案できる。 (6) 既習の知識・技術をもとに患者に必要な看護技術や治療・処置に伴う援助を実施できる。 (7) 突発的な出来事に対し、状況を判断し優先すべき援助を考えることができる。 (8) 患者に起きた事象を他のチームメンバーに報告し、協同して援助を実践できる。 (9) 災害時における地域の医療提供体制について理解することができる。 (10) 看護の実務がイメージでき、専門職としての責務を理解し、自己の課題を明確にすることができる。			
実 習 内 容			
【病棟実習（複数受け持ち）】 ・病棟の概要についてのオリエンテーション ・受け持ち患者の決定（2 事例） ・病棟看護師の看護援助の見学および 指示のもとに実施病棟管理報告、申し送りに参加 ・行動計画の調整 ・チームメンバーに同行しながら、受け持ち患者の看護援助および情報収集を行う。また、可能な限りチーム内でのカンファレンスに参加する。 【病棟実習（病棟管理者・チームリーダー）】 ・病棟管理報告、申し送りの見学 ・病棟管理者（看護師長、管理代行者）につき看護管理業の見学をする。 ・看護チームのリーダーに同行し、リーダーの役割を見学する。			

【病棟実習（夜間実習）】

- ・ 夜間実習の行動調整と注意点の確認
- ・ 受け持ち患者の情報収集
- ・ 夜勤帯業務の準備（実施可能なものは、担当看護師とともに行う）
- ・ 申し送りの参加
- ・ 巡視
- ・ 夜間の患者の特徴をふまえた日常生活援助の実際を理解する。
- ・ 夜間に特有な患者の状況や、環境面での危険因子についてどのような対策を講じているかを理解する。
- ・ 当直看護師長への報告（見学）を通して夜間の看護管理体制を理解する。

【学内実習】

- ・ 紙上事例の提示(2 事例)
- ・ 2 事例をもとに演習を行う。
- ・ 災害時の医療体制についての講話

※その他詳細は看護の統合と実践実習要項を参照

実習期間・実習メンバーは別途提示

評価方法	実習評価 100 点
評 価	S : 100～90 点 A : 89～80 点 B : 79～70 点 C : 69～60 点 D : 59 点以下

科目名	講義時期	単位（時間）	実務経験の有無
多職種連携実習	3 年次通年	1 単位（30 時間）	看護師として病院勤務有
<学習の目的> 医療チームの一員として多職種と連携し協働する必要性と方法を理解し、看護専門職としての役割と多職種連携のあり方を考察する。 <学習の目標> (1) 各職種の役割と業務内容を理解できる。 (2) 各部署における連携のあり方、課題について理解できる。 (3) 多職種連携に必要な能力について理解できる。 (4) 看護職以外の職種の視点、協働のあり方について理解できる。 (5) 医療チームの一員として求められる基本的な姿勢・態度を明確にできる。			
実 習 内 容			
【病棟実習】 ・リハビリテーション科、薬剤科、栄養科にて、スタッフと行動をともにし、業務内容や多職種連携の実際の見学する。 ・MSW の役割、退院調整看護師について説明を受ける。			
※その他詳細は多職種連携実習実習要項を参照 実習期間・実習メンバーは別途提示			
評価方法	実習評価 100 点		
評 価	S : 100～90 点 A : 89～80 点 B : 79～70 点 C : 69～60 点 D : 59 点以下		